男女貞潔之理想　公娼廢止之主張

會長　島田三郎　副會長　安部磯雄

6－171

廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十年六月十日印刷）
（大正十年六月十日發行）
（毎月一回十日發行）

第十一卷第五・六號

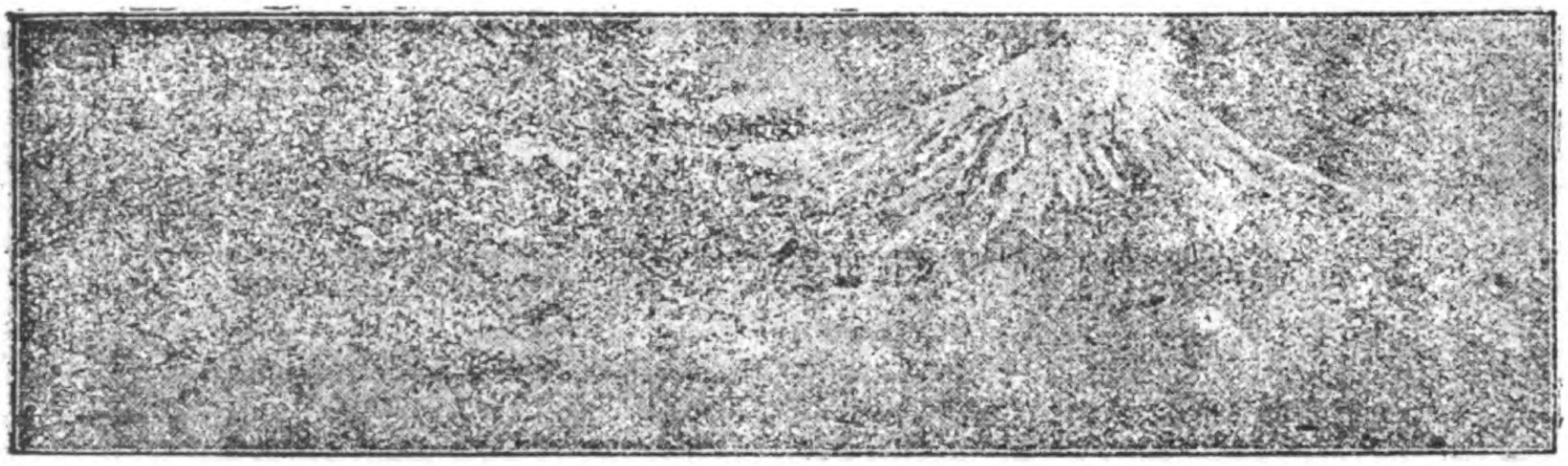
＝（本誌の言論）＝眞摯にして尤も雄健　腐敗社會の淸涼劑なり

＝（本誌の使命）＝凡ゆる矛盾を蹂躪し　墮落社會の眞の革正

東京　廓淸會本部　發行



菖蒲咲く朝の
すがすがしさ！
ライオン煉歯磨の
使ひ心地よさ！
樂しい快い氣分に浸りながら、歯を
強く美しくなさるには、ライオン煉歯磨
の御愛用が何よりでございます。



不良老年の取締

待合と謂ふ語は何と譯すべきか、若し之れを Waiting room と云ふならば、僕には停車場のそれか、俥夫の供待ち以外には何等考え及ばないのである。然し是は強ち僕の偏見のみに非ずして、その存在が根本から間違つて居るからであつて、社會に無必要有害毒なもので、我が國の政事が常に开廢醜穢な場所で論議され、凡ゆる商取引が矢張りこの待合の奥深くて謀られるが爲めに、政事は恒に暗影を伴ゐ、商取引は多く不醇であり、社會の秩序は不斷に攪亂せられ事件の裏面には女ありといふ樣な辭も產まれて來たのであつて、實にそれは社會紊亂機關であり社會毒化策源地であるから、その存在は絶對に認むべきものでないばかりでなく當然社會から抹殺すべきものである。最近惹起して社會の耳目を聳動せしめた著名なる種々の事件の陰に、卑賤なる女性の纏綿し、蠢動して居たことは、既に公知の事實であるが、事の大小を問はず多くの事件や紛爭の裡ちには必然的に是等女性の伴隨して社會を蠹毒し、家庭の團欒を破壞しつゝあることは事實であつて、私娼の存在が認め難きと倶に、彼等の巢喰えるその跳躍場所たる待合の如きも、怎うしても絶滅すべきものであることを痛切に考えるのである。國家は不良少年少女の取締りには可成り考慮を拂ひ、萌蘖を摘つて居るが、勿論是れも必要な事であるに違ひないとしても、是等は區々たる事で彼等の爲す所は未だ稚戯に類することであるが、彼等に範を示せる不良老年こそ、實に其の取締りを等閑に附し、到底是を過看視し得ないものである。不良老年等は社會の上層に座し、上來述べた樣な不醇な場所に常習的に出入して不善を爲し、社會に對しては決して良い印象を與へては居らないのみならず、一方純潔なる青年を毒化し、社會を墮落攪亂しつゝあるのであるから、その取締りは不良少年少女の取り締りよりも一層緊要なる事項である。試みに最近地方に演ぜられた爲め全く社會から不問に附せられて居る不良老年の醜體の一例を觀るに、靜岡で縣知事道岡某を始め、その他の縣高官達が深更遊興に耽溺して十二時以後の遊興を嚴禁せる同縣令を自ら破つたばかりでなく、警察官へ向つて不當の壓迫を加えたといふことであるが、その不都合なることは言ふを俟たないことであつて、如此不良老年が隨所に跋扈跳梁して社會の良俗を紊ることは、到底不良少年少女の比ではない。开處で僕は、寧ろ不良老年の取締りに向つて國家の辛嚴を望み、國民が一層慧眼を之れに注ぐことを望まざるを得ないのである。若し國民が齊しく覺醒し、完全にその取締りが行はるゝなら、滿鐵問題、阿片問題、瓦斯問題の樣な不體裁も根絶することが出來、社會も淨化されるに違ゐない。

廓清
THE PURITY
大正十年六月
第十一巻第六號



日米關係と對支外交

廓清會長　島田三郎

日米果して戰ふべきか

世界大戰の爲めに、列國の思想は一變した。舊世界は一擧に新世界を現出した思ひがある。從つて列國の關係も根底より變化するは必然の勢ひである。差向き東洋に於ては日米の關係が重大となつた。動もすれば、日米戰爭は免れぬとの言を聞く様になつた。兩國とも多數の人があり、各自の説があるから、戰爭説も久しく耳に熟する處ではあるが、近時に至つて一層濃厚の色を呈し、内國の政治にも非常な影響を及ぼしてゐる。此の兩國の關係を改善して中間に横はる雲霧を一掃しなければ、たとへ戰爭はないとしても、國政改善の一大妨害となるは明かである。特に日本國民の受くる危害は重大で、直接影響を受くるのは陸海軍の費用である。世界の大戰が終熄した時、殊に國際聯盟規約が成立した時、一時は世界は人類あつて より以來、其進歩を妨げ其危害を受けた戰爭の大厄難より免れる如き希望もあつたが、日を經るに從つて此の望みは薄らぐ如く、特に日米の關係は舊時に比するに却つて好ましからぬ風説を聞くことゝなつた。歎ずべき限りである。

從來日本を脅威したのは露國であつた。軍國主義侵略主義の帝國露西亞が覆つて、此の脅威を免れたと思へば、新に日米間の不祥なる取沙汰を聞くは眞に意外である。併しながら冷靜に公平に觀察すれば、斷じて斯かる虞れはないとの結論に達せざるを得ぬ。試みにその理由を述べんに、米國は開拓すべき土地を有すること廣漠多大で、領土を貪るの必要なきは米

人の明言する如くである。日米間を隔つる太平洋は數千哩、彼我を攻むるにも、我彼を攻むるにも餘りに遠隔である。たとへ萬難を排して兩國が攻擊するとしても、是を占領し是を領有する望みはない。領有して何の要求する目的もないから是は論外である。米國の海外領土も日本とは餘りに隔つてゐる。双方此の望みなき爭は、何の得る所なくして而も其の損害は不測である。戰爭論者は空想を抱いて種々の說をなすが、要するに識者は是を度外に措いてゐるのである。

米國は資本主義であり、新なる軍國主義であると、日本人の或者はいふ、日本は軍國主義帝國であり、侵略主義の國であると、外人の或者はいふ。併し戰をなして何を求むるかといふに至つては、捕ふべき何物もない。米人の或者はいふ、移民問題は日本の憤怒を醸す、是が戰爭の原因であると、併し乍ら移民のことに就いては種々複雜した理由があつて、双方の誤解に因してゐる。是は外交上決せらるべきものに非ずして、戰ふべきものであるとは、知識社會の一人も信じ得ざる處である。

比島獨立と日本占領の危惧

今日は日本の移民方針は根底より一變した。尚ほ米大陸の空地へ日本人が自由に住居し、彼地に出生したる兒童は、必然の結果として米人たるべき完全の資格を有することは、極めて有望のことである。然るに現に米國に生れた日本人の子供に市民權を與へぬなどゝいふ新法律を作らんとする說が米國にある。是は双方に適當の準備がなく一時の誤解に過ぎぬ此事は別に論ずるが、近時フイリッピン問題に就いて理由なき說が行はれる。久しくフイリッピン人の渴望し、民主黨員が是に同意する同島獨立のことは、共和黨が是を拒むの理由として、比島を獨立せしむれば、日本が是を占領する虞れがあるといふが、是等は意外のことゝ感ずる。我等をして根底より純粹なる米國思想を以て解決せしむれば、獨立の準備だに成らば、是を獨立せしむるが米國本來の國論でなければならぬ。是を獨立せしむれば米本國が多くの費用を注ぐの必要なく、比島が獨立して繁昌することは米國の利益であり、日本の利益であるから、日本は其繁榮を望んで通商を盛んにすべきことをこそ希へ、是を取つて米國と爭を起すが如きは夢想だにせぬ。然るに此の根據なき風說が相當に米人の神經を刺激するものと見え、布哇の國防に多大の金を投じ、ガムの防禦を嚴重にし、更にヤップ島の問題にも並々の力瘤を入れてゐる如きは、何れも比島に對する日本の危險を憂ふるからである。或米人はパナマの防禦を嚴にせねばならぬといふ。更に桑港灣中のアラメダを軍港として多大の防備費を今期の議會に提出した。是は幸に否決せられたが、大艦隊を東洋に遣つて示威運動をなさんとする政治家もある。何れにしても米國は其國の大に比して餘りに神經過敏である。

複雜を極むる米國の國情

けれども是を以て米國の國論とし、日本人が日米戰爭を避くべからずとなすは大なる誤りで、米國の國情を詳にせざる爲めである。米國は多數の州から成立して、州は或程度迄

獨立の體裁を供へ、所謂聯邦の組織である。且つ米人と稱するも其人種は錯雜してゐる。獨逸系統に屬する者約一千萬、是に次ては愛蘭人も數百萬人ある。州は州の意見を極端に主張し、民族は民族の意見を勝手に主張し得る。言論に於ては殆んど無制限の國であるから、處により人種によりて種々の言論を發表して憚らぬ。殊にデモクラシーの國であるから、多數の中には國內の事情もよく理解せざる特に新來の人民に此風が極端である。日本人の慣習から見れば、米人として稱へる處は直に米人多數の意見の如く聞え、斯の如きことを公言するは憚るべきことであるに、それを公言するは國論であらねばならぬと考へるが、是は外國に對して妄りに其國情を害する如き言論をなさぬ慣習を有し、又なさしめざる勢力を有する政府を頂く日本人から見れば、餘りに不思議に見える。

更に碎いて言へば、海軍擴張の如きも造船所の運動もあり造船所の金が低級なる新聞紙を動かして戰爭論を宣傳せしむることもないではない。特に大統領選擧前には、政治家が此種類の發言を遠慮することもある。極めて錯雜したる少壯年國と見ればよろしい。現に双方の政治家は、英米の交際を圓滿に續けることに就ては、非常に注意を拂つて居るに拘らず愛蘭系統の米人は、愛蘭のシンフーーン黨の後援をなして、金を送り武器を送り、更に愛蘭獨立の教會を建て、其の或者は議會に陳情したり請願したり大騷ぎをやつてゐる。然るに此頃に至る迄英吉利は是を氣にもかけず、近日始めて議會で質問があつたら、此事に就ては米國政府に注意の交渉をなすことゝすると答へた位の、自若たる態度を執つてゐる。是は英國人の米國々情を洞察して居る爲めてある。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

一方に斯の如く外國に向つて輕卒なる不穩なる擧動をなす者があるかと思へば、他方では極端なる平和論者が英米の親善を熱心に主張し、日米の善隣を固うせえと熱心に活動する米人もある。宗教社會は一般に此方針を執つて其宗派の如何に關らず盛んに運動してゐる。日本人の想像せざる此の宗教家の運動こそ、實は米國を動かす大勢力である。宗教家中日本の國情を知つてゐる人に特に或種の米人は、日本に買收せられたなどと氣の毒な讒謗を受けても、撓まず怯まず宣傳してゐる最も知られてゐるギユリーキ博士の如き、其一人である。此の勢力は最近新に投票權を得た婦人社會の活動である。領土慾を逞くして、或は自己の武器や戰艦業を繁昌せしめんとする、其他戰爭に依つて利益ある資本家などの反對に立つて、活動する勞働社會の勢力を加へたことも著しき新現象てある。

朝鮮統治の失敗と大本教の宣傳

對獨戰爭の最中には、從來獨逸人が日本人の米國に對する商業を防害せんとして、日本人を讒謗した。此戰爭に依つて日本人が獨逸人の友に非ざることを發見して、これ迄の疑が解けたといふ米人があつた。此時代は先年一年間の借地法を延長して十年にしやうといふ原案を、加州サクラメント政廳が提出するなどいふ噂もあつた。此事が忽ちに變化して遂に

昨年特に日本人を憤激せしめた加州新土地法案の提出となつた。此の原因の一は、日本の朝鮮に對する政策の米國に傳はつたことが、米人の心を一變せしめたのである。米人は焦燥の國民であるから、又多數の人民が平等の位置に立つて政治に參加するのであるから、其の人心は動き易く變化し易い。事業に繁忙で他事を顧みる遑なく、人口が多分であるから新に起つた問題を裕くり解決する餘裕がない。一時の事情はその感情を變化せしむることがある。是等は米國の社會を理解する日本人に於ては諒解するが、此の事情を知らぬ者は亦大に考へねばならぬ。名は云はぬが大本教の宣傳に就て、或米人は頗る疑を懷いて、日本人の心に潜む思想に嫌疑を有つてゐる。是が爲めに外交を妨げるから、其眞相を明にして識者に知らしむる必要があるとして、綾部に趣いた特種の日本人がある。大本教の言ふ處によれば、日米の戰爭は避く可からざるもので、日本の某都會は燒かれ、一時は敗軍するが、日本の天皇は遂に世界を統一する時があると、いふのである。而も其信者は陸海軍の將校であるとの說が傳はつて彼等も大に驚いたとのことである。此の種類の思想宣傳や或派の佛教徒が、日本人はたとへ外國に趣くとも眞に外教化してはならぬ。外人化してはならぬ。と一種の宣傳を試むるが、宗教自由の國であるから、彼等は表立つて反對は出來ぬけれども、斯様な態度には頗る後來の危險がある。

日本人の誤れる愛國心

米國に歸化しても心は日本人的精神を抱き、いざ事があつたら內地に日本人の反對が團結して起ることはあるまいかと氣遣ふのである。或者は露骨に日本人の父母の持つた子供は自然米國の籍に入つても、心は日本人たることを失ふなと教へられては、米國內に日本の社會が出來るのである。養子に行つて實家の利害のみを考へ、嫁に往つて夫の家を天地とせざる者あらば如何であるか、日本の法律は、日本人を父母にする子供は、自然に日本人に籍を有つことゝなつてゐる。是が爲めに米領に生れた子供は、自然に米人たるべき筈なるに日本の國に於ては日本人である。所謂二重國籍となり、日本の軍籍に入る資格もある。是も米人が疑へば疑ふべきで、此の嫌疑は一千萬の獨逸系統米人中に若干の純粹なる獨逸精神を以て獨米戰爭の時に米人を恐れしめた、苦き經驗に懲りてゐるから、自ら日本人に對する感じが斯くなつて來るのである。神經過敏の米人とは云へ、米人の心からは又餘儀ない次第であらうし、斯く煽動する者があれば、其處に乘ぜられるのである。更に米國に支店を有つてゐる銀行は、銀行の利益を直接に考へて、永遠の移住民の落着きを考へぬから、及ぶべきだけ、移住民の金を吸收して是を本國に送る。米國の金を取つて米國の社會を改造する分前を出すとには極めて僅少であるから、自然米人と別社會を造ることゝなる。是等のとは移住民問題を永久に妥當の解決をなす妨げの箇條である。

更に日本人を嫌ふ者の言を聞くに、日本人は本國の利益となれば卒直に眞實を語らないで、事實を隱蔽するのを愛國のことゝ感じてゐるが、此の點は米人と反りが合はぬといふ批難をする。今彼等の言をその儘に移せば、支那朝鮮西比利に

起る種々の出來事も、日本の報告は當てにならぬ。友人たる日本の人も眞實を語らぬ。此點に就ては双方ともに行違もあるが、日本人の手に出てたる報告は、凡て曲は支那人朝鮮人露西亞人にあつて、直は日本人にあると傳へられるが、米國人は是を信じない。此點に於ては米國人は隨分日本人を驚かす處の說話もすれば議論もする。たとへば國民の總代理の如き資格を以てベルサイユ會議に臨んだる前大統領ウヰルソンの言動を忌憚なく批難して議會はウヰルソン氏の命懸けに建設的努力した國際聯盟を非難して、忌憚なくウヰルソン氏を攻擊する。此の調子で米人の腑に落ちぬことはさつさと非難する。此の點に於て國人國情の相違は、日本人は非を蔽護して眞實を語らしめぬから、信ずることが出來ぬといふ風に解釋する。是等も朝鮮支那問題に於て彼等相爭ふの不便となる。

之を要するに、日本人も米國人の氣風を眞實に諒解し、たとへ日本人のとても非は非なりとして改めるだけの邪量がなくてはならぬ。國惡を忌むといふ支那の舊說を固守して萬事糊塗を事としては現代の國際事件を處理するに不利である。

此の他は日米戰爭の風說を傳播する原因は、日本が東洋大陸に對する進退擧動である。朝鮮問題も一原因である。日支の疎隔は大原因である。西比利の出兵が又追加の原因である。是に就ては支那人の信ずべき告白を引用するの必要がある。段汝耕といふ人は極めて誠實の言葉を以て日本に對する感情を吐露してゐる。

「二十七八年の日支の戰爭は支那が負けた。併し是は支那人全體の日本を憎む原因ではなく、一時は日本を尊敬信用する原因であつた。彼の戰ひは專制政體に通有の政府の權力者が戰つて敗北したので、支那國民は痛痒を感じなかつた。却つて日本が國政を改善して富强の國となつた。と敗北した政府を疎んじて日本人を尊信し、斯かる效を奏するのは驚くべき國民である。先覺の國として是に倣ふて國政を改めればならぬといふ說が起つて、變法自强說の起つたのは是が爲めてある。併し清朝が衰へて變法自强說も何の效もなく、續いて拳匪事件があつた。是は露獨佛米の諸國が一樣に支那に向つて壓迫を加へんとする形勢て、特に露國が著しかつた。併し是は所謂短慮なる過激派の擧動で、有識の政治家劉坤一張之洞袁世凱は是に反對したが斯の如き妄擧をやつて禍を取つた。けれども此邊に於て我國人(支那人)は一層日本人を信用するの機會となつた。日本の軍隊は規律正しくして、露國の如く亂暴てなかつたから、日本と親しむの情はあつて、日本を恨むの情はなかつた。此事が事實に現はれて政治、經濟軍備、皆日本に模倣せんとして、中央政府に雇入れる高官は是を日本に取り、青年は爭ふて日本に留學することとなつた。一時は二萬人の多きに達したが、是等は全國を通じて各省から出たので全國に渉つて日本を慕ふの風傳播せんとした。此時代は日本から誘はれず、我國人自ら此れに出てたのてある。故に日淸戰爭は日本人を怨む原因どころでなきは明白てある。續いて日露の戰爭が起つた。在東京の支那人は盛んに日支同盟を高調し、留學生から義勇兵を募つて日本軍に從軍せんとする計畫さへあれた。此風潮は全國に風靡するの有樣て、是は露國が南下して旅順に要塞を構へ、支那を脅威したから、日支協同の敵て東洋の協力て確保せればならぬとさへ思つたのてある。

然るに此の希望は全く裏切られた。日露戰爭後に於ける日本の支那に對する態度は、一言にして言へば日本人は餘りに驕慢てあまりに冷淡てあつた。日本に留學した學生が日本の社會事情に通曉するに從つて、民族として支那を劣等の者と見るの狀態がありありと目に映じて、支那人を呼ぶに侮辱の言葉を以てするが日本社會の通有てあるかと思はるゝに至つて、日本を信頼する熱情が冷却した。留學の學生も日本の學生と同等の待遇を與へられず、甚しきは營利的學校は新設せられて、得る處極めて淺いものてあつた。永く住むに堪えず其侮辱を快く思はずして歸鄉し、歸鄉しては日本の賴み少き事を說話する種になつた。斯くして列國の態度は日露戰爭後益々勢力範圍の設定利權の獲得といふ樣の事をやつた。心は不快てあつても支那が自力を以て之を防ぐことは出來

ない。いさかに脣齒輔車の關係ある日本人だけは一縷の望みを抱いて居つたのに、日本の支那に臨む態度は同一であるばかりではない。滿洲方面に於ては日本人の移住が增加するに從つて、日本政府の强力を背後に負ふた日本人は、其の驕慢と侮蔑と冷淡の心情とを事實に現はして、壓迫が加はつた。然し是は西洋諸國と同じ態度で之をやるのと、日本人中の無理解の者が斯くするのであると、尙一縷の望みを繋いで居つた。

然るに世界大戰の時に至つて日本人は、西洋諸國と協力して支那を交際上壓して居つたとの我等の豫想は全く反して、西洋の權力がなければ一層日本の壓迫は加はるのであるといふことを知つた。日本の對支十二ケ條が卽ちそれである。西洋諸國が戰爭に忙はしく、東洋を顧みるの暇なきを機會として、南滿洲に顧問教官を置くべく、政治財政の諸事も日本人の指導を受くべく、警察も日本人を雇入すべく强硬なる要求をせられたに就て、西洋の權勢なく日本一ケ國にて支那と相對する時は、斯の如き辛辣なる手の延び來ることを實驗した。茲に至つて支那は西洋の權勢を必要とする感じを起すに至つたのである。

それでもまだ日本を全く見限る程にはなかつた。それ故袁世凱の帝位に卽くを企てのあつた時、多數の支那人は是を不利と考へ、折角國政を改めて日本の如く新政を布く希望を抱いてゐたので、袁世凱の下に跪づく事を快しとしなかつたが、兵力を擁する袁世凱を押ふる力がなかつた。幸に日本の發議が諸外國と共に之を止めて呉れたから、外國の關係とは之ひながら國民の利益であるから、此事には日本に感謝したのである。然し乍ら續いて取る日本の政略はまた日本を失望せしめた。袁の系統の段祺瑞の後援となつて、是に力を藉し、之に金を借し、其勢力を繼續せしめたことは支那の內治を攪亂する所以となつて、且つ之に敵する機會もなく、日本の支那の內政に段祺瑞の手を經て干涉することを不同意の外人と親しむ樣になつた。

更に邊境防備の協約と稱して軍費の協定をやり、武器共通の如き何處迄も袁世凱の力を支那の內部に伸べしむることを行つたから、愈々日本を疎んずる樣になつた。更に內閣が變つて段祺瑞を助くる緣故は絕えた。これだけは收まつたが、日本の對西比利亞政策の如き種々の口實の下に、滿洲里やチタに多數の軍隊を駐屯せしめたのは、支那に何の事もないであらうが、やがて何か勢力を布くのであらうといふ疑ひが起つてゐる。

事實の感情は此通りである。眞に心から日支の親善を思ふなら、此等の如き事實は起らぬ筈である。朝鮮は日本の助けを借りて獨立して亡びた。支那は日本の助けを借りて如何になるであらうかといふ心配は、心ある支那人の胸中に潜んでゐる。是が現はれて日本に對抗する外人の力を借りて日本の壓迫を免れんとする者を生じた。是が現はれて平和會議に山東問題によりて日支の離隔を生じた。斯の如きは日支の親善の爲めに極めて悲しむべき形跡である。其上に我國人(支那人)をして歐米人に依賴するの心を生ぜしむるのは、我國人が直接に日本に對抗して其壓迫を免れんとする時には何事も行はれない。例せば對支借款除外例に關し、滿蒙除外を求めても日本は到底望みを容れる見込はなかつたが、英米諸國から干涉せられたら或種の讓步をなした。卽ち日本人は我國直接の要求なら一も二もなく拒絕する、英米の要求なら此限りに非ずしてゐるとしか思はれぬ。我國人も多年の苦しみを脫して、新なる國運を開かんとする心を懷く者が增加した。老人の心は依然として消極であるが、新進の靑年は革新自强の精神を抱くに至つたから、前途に種々の希望を有してゐる。領事裁判官の撤廢、駐屯軍の引上げ、關稅改正の如き其重なるものであるが、是等の希望を貫徹する爲めに努力するも、從來の形跡を見ては、日本の援助を乞ふて之を達する望みはない。諸外國と一樣に反對するが、甚しきは單獨で反對するを辭さない氣色である。勢ひ外に向はざるを得ぬではないか。日支親善は外交的言辭の能くする途に非ずして眞實に日支兩國人の相互諒解と他の援助に俟たればならぬ。此の援助なしに得べきか、現狀に於ては先づ望むことが出來ない。是が我國人の僞らざる心狀である」云々。

以上は段汝耕氏の僞らざる告白らしい。是を讀んで同情を禁ずることが出來ない。日支親善は東洋の平和維持の基礎である。此の親善は武力を以て得べきではない。心の底から湧き出づる同情の結果であらねばならぬ。之を要するに日本が內に國民を滿足せしめ、外に發展を望まんとすれば根底に誠意がなければならぬ。心を開き誠を竭すを國隆の方針とすれば、各種の問題は刄を迎へて解けるのである。

社會改造の手段を論ず（上）

一條忠衛

一　社會は如何なる手段によつて改造されるか

或る目的から理想を描いて現在の社會を改造しなければならぬと云ふ事は、最早議論の餘地のないほど明白な事柄である。けれども、その改造なるものは如何なる手段に訴へて實現さるべきかに就いては、大に意見の分れるところである。その中の或る論者は暴力に訴へて改造するより外に方法がないと考へて居る。凡ての社會生活の缺陥を勞資の階級爭鬪に歸して怠業、罷業、暴行を振り出すとして、革命を手段として資本制度を一擧にして崩壊するより外に、妙案がないと考へて居る。そしてこれは正義であり公正であると思惟するのである。今日の社會改造論者で急進的に志のある者は、この說の信者であるか若くはその亞流たらざる者はない。マルクスを祖述し、エンゲルスを繼承し、クロポトキンに共鳴し、レーニンを崇拜する世間の謂る唯物史觀的思想家は、その所說を社會主義と稱しても、共產主義と稱しても、無政府主義と稱しても、過激主義と稱しても、或は何か體裁のよい文句を附けても、勞資の階級爭鬪によつて資本制度を倒せばそれて良いと思つて居る。そしてその手段は暴力によつても敢て差支ないと考へるのである尤も暴力によらずに穩健な手段があればそれに據るに越した事はないのであるが、それが無いのであるから暴力の手段に據るより外に詮方がないと思ひ込むのである。資本家に私擅された議會政治で解決の附く道理のない事は既に議論の餘地がないのであるから、唯だ腕力によつて一刀兩斷の下に解決するの一途あるのみだと想像するのである。

併し乍ら、この考は果して正しいか何うか。社會改造の手段は暴力革命の外にないか何うか。勿論資本家に橫領された議會政治の恃むに足らぬ事は自明だが、その外に有力な方法がないと速斷することが出來るか何うか。勿論自然に放任して解決の曉を俟つと云ふ呑氣な方法に他頼ると云ふのでは無しに、人間の自由な力によつて不完全な現社會の根本的改造を成就し得る科學的手段といふものが、學術上より見て積極的に無いか何うか。互に怒聲を張り上げて豹狼の鬪をする議會政治に歲月を費さずに、互に劍戟を取つて殺戮する暴力革命によらずに、無爲放任に委ねて自然の解決を俟つと云ふ手緩い手段を執らずに、最も合理的な確實な社會改造の

唯一方法なる理想的手段は無いか何うか。若し科學的に見て人生に目的といふものがあり、理想といふものがあり、至善といふものがあるとすれば、それを實現する爲めの手段方法の存在することは科學上豫想される事柄である。人間の社會的生活に就いてこれが目的だと指すことの出來る實在が存するとすれば、これが手段だと斷ずることの出來る實在の存することは、科學者の斷言して憚らぬところである。世人が常識によつて人間の社會的生活に就いて目的觀を描き、その生活を實現する方法として手段觀を有するは、既にこの事實を假定して居るが爲めである。科學者はこの假定の上に立ち更にこれを修補して歸納的に演繹的な普遍の法則を見出し、社會生活の目的と手段とを論定し、現在の不完全なる社會生活に對しては改造の方法を明示するのである。近代の文化の科學の進歩であるとする以上は、社會改造の手段を論定するものも亦た科學で無ければならぬことは、章々乎として明であり、學問の價値を信ずる者には共通に認識される事柄である。今日社會問題と稱せられるものは悉くこの生活の改造に關する手段を論定しようと試みて居るものである。その中でも最も權威あり最も世人の共鳴を博する思想も悉く科學的に手段を指摘した思想である。マルクスの資本論に於ける勞働者の團結や、クロポトキンの無政府主義に於ける暴力革命や、レーニンの過激主義に於ける恐怖政策は皆な科學的手段として尊敬されるのである。けれども、此等の手段なるものは果して科學的に正當なる社會改造の究極的手段であるか何うか。これを人生の至善を對象として研究する科學的倫理學の見地から批判したならば、何ういふ結果になるか。これは倫理學上の一研究問題である。

五　マルクスの唯物史觀とクロポトキンの無政府主義に於ける一大疑點

マルクスは共產黨宣言に於て、歷史の各時代に於ては必ず生產分配に關する經濟上特殊なる方法があり、又必然それよりして生ずる社會組織があつて、その時代の政治及び文明の歷史はその基礎の上に建設され、又その基礎によつて說明されると爲し、人類の全歷史は階級鬪爭の歷史であつて、掠奪階級と被掠奪階級との壓制對抗の歷史であると爲した。そして彼は平素下の如く信じて居た。人間がその生活の資料を社會的に生產する時に當り或る必然的な關係が生じて自己の意志よりも獨立したものが作られる。その關係は何であるかと云ふに、その社會に於ける物資的生產力の發達程度に相應する生產關係である。そしてこの生產關係の總和が社會の經濟的構造を作爲するもので、政治法律の上部構造を組織する眞個の基礎であり、又これに相應する或る種の社會的自覺を生ぜしめるものである。この物質的生活資料の產出方法か社會的政治的、及び精神的の一般生活上の過程を決定する。人の意識が人の生活を決定するのでは無くて、その反對に人の社會生活が人の意識を決定するものであるとマルクスは說いた。そして尚ほ彼は下の如く考へた。然るに社會の物質的生產力はその發達の或る段階に於ては、現在の生產關係と矛盾する事となる。換言すれば此の生產關係の法律的表示に過

さない所の財產關係と、從來この生產力を自己の內部に活動せしめてゐた所の財產關係と矛盾する事となる。卽ちこの關係が生產力の發達形式たる事から一變してその障礙物となる。是に於て社會革命の時代が始まる。經濟的基礎が變化すると共にその巨大なる上部構造の全部もまた或は徐々に或は急激に革命されると彼は考へた。

今このマルクスの唯物史觀說を見るに、人間の社會的生活を生產關係に於ける經濟上の自然現象と解し、必然の因果律によつて支配されるものと見たのである。人間の意識は人間の社會生活を決定するものでは無くて、却つて人間の社會生活が人間の意識を決定するものと見たのである。然るに彼は世界の勞働者に團結を迫り、革命を豫想して居るのである。卽ち革命を資本制度に於ける必然の現象と解した上に、その革命は勞働者の團結に俟たねばならぬと考へたのである。そしてこの勞働者の團結も無論必然の現象であるけれども、マルクスはこれを『世界の勞働者よ團結せよ』と命令して、自由意志によつて結合し得るものと信じたのである。つまりマルクスは人間の社會的生活に就いて、これを客觀的に觀れば生產關係に於ける經濟上の自然現象であると解したのであるが、それを主觀的に觀れば勞働者の自由意志で團結することによつて革命されるものと考へたのである。この說は一見矛盾したやうであるが、決して矛盾したものでは無い。唯だ說明が足りないまでゝある。人間の社會生活を客觀的な經濟現象として見れば、如何にもマルクスの言ふ通りに必然的に唯物史觀的なものである。けれども、これを主觀的に見れば勞働者の團結によつて革命される意志の自由性を帶びて居る。人間の純粹直觀の世界は全然客觀的でも無ければ全然主觀的でも無い。卽ち物質界ばかりでも無く、精神界ばかりでも無い。人間の人格に於ける活動的な具體的經驗としては、主觀客觀の兩面を備へて居る。そして直接には意識界卽ち人格の世界となり、間接には自然界となり、意志の自由がその主觀的作用となる。そこで人間の意識を見るに自然界に對しては主觀的であるが、更に意識の統一者として絕對的に自由なる意志の立場から見れば客觀的である。それでマルクスの言ふ通りに人間の意識を客觀的に見れば、社會の生產關係の因果律に支配されるものであるが、人格に於ける絕對自由の意志から見れば、勞働者の團結によつて目的論的に革命されて、客觀的な社會の生產關係が改廢されることになる。それでこの點に於てはマルクスの唯物史觀論が矛盾して居るとか、說明が足りないとか云ふことは問題とならぬほどつまらぬ事柄に過ぎぬので、重大な問題は外に殘されて居る。それは斯かる場合に當り、勞働者の團結による主觀的な革命の手段を以て、客觀的な資本制度を革命することが科學的に見て正當であるか何うかが問題である。殊に暴力革命を手段として『手段な目的を神聖とす』と解する道德觀は科學的思想として正しいか何うかが問題である。これを解決するには一應クロポトキンの所說をざつと窺つて見なければならない。

クロポトキンの考に依れば、人間の究竟の目的は自由なる人格にあるのだが、國家主義と私有財產制度の爲めにこの

自由を妨げられて居ると見るので、これを改廢するには無政府主義と共産主義とを以てせねばならぬと主張するのてある。そして彼は生物には相互扶助の本能があるので、人類に至つては明に意識的に又は道德的に社會生活の中にこれを爲して居るので、人生の苦闘はこの精神の結合によつて救はれると說くのである。隨つて國家は必要なく小地方本位の組合が必要であると論ずるのである。そして彼は斯う確信して居る。爭闘は有害であつて平和は大に必要であるが、強者の橫暴を默して看過することは卑怯である。自己一人の個人的侮辱ならば忍んでも止むが、強者が政治經濟の上から弱者を壓迫する場合には、身を挺して弱者を援け強者を打ち懲さなければならぬ。縱令弱者の頭上に下さるゝ鐵拳が我々の身の上にも落下すると云ふことを知つて居ても、必ずこの行動に出てねばならぬ。惡人と強者とが弱者を虐げるのを默つて傍觀して居ると云ふことは、許すべからざる卑怯である。こんな卑怯が絕えないから壓制が橫暴を止めないのである。隨つて自由、平等、四海同胞の觀念の發達も將來に期すべからざることである。それてこれを擁護して相互扶助の人道的精神を全うして、人間の人格的生活を完成するには、暴力革命は唯一の手段であるとクロポトキンは主張するのである。彼はこれを以て科學的結論として信じたのである。

今この說を見るに弱者に對して同情を有し、相互扶助の人道的精神を鼓吹して人格の自由を提唱する動機に於ては些も排難すべき點はないのであるが、その手段として選ばれたところの暴力革命に至つては何うか。特に目的論的に人類の愛に成れる相互扶助を人間の普遍的法則として信奉する場合に、階級爭闘のためにこれを利用して弱者の生存競爭の要具となし、強者に對抗して暴力を以てこの法則を擁護せんとすることは、その論理に於て手段に於て果して科學的であるか何うか。換言すればマルクスの客觀的な唯物史觀の世界に於て、クロポトキンの相互扶助の人道的目的を實現する爲めに用ゐられる暴力革命の手段は、道德上より見て正しいか何うか。これは一大疑問である。

三　倫理學に於ける人生の目的及び手段

マルクスの社會主義やクロポトキンの無政府主義は特に科學的な研究の成果として有名なものであるが、現代の倫理學も亦た科學的な研究の成果として權威を有するものである。そして社會主義でも無政府主義でも人間の社會的生活に關する道德的法則より見て正當なものとして暴力革命を是認するのであるが、これに對して倫理學は如何なる態度に出づるものであるかこれを決するには先づ兩者の研究對象を明にせねばならぬ。社會主義や無政府主義は社會の政治、經濟、法律、道德等に關する唯物史觀的制度を直接の對象として研究して居るので、自然科學的研究に準じて社會的生活の規範を歸納的に見出さうとするのである。そして道德的規範はその中から間接に抽き出される派生的規範であると見做されて居るのである。然るに倫理學ではさうは見て居ないのである。倫理學は人間の人格活動を直接の對象とし、行爲の至善

的價値を目標として居るので、人間の人格活動の一切に對して普遍的概念と歸納的經驗とを併せて、道德的規範を論定することを目的として居るのてある。それて政治も經濟も法律も總て人間の人格活動の發現として、この道德的規範によつてその究極的價値を決定されるものとして取扱つて居るのてある。換言すれば倫理學は科學的方法により、人間が人間として有たねばならぬ人格的價値を論定して、人生の目的及び手段を指示する最高の善を規定する學問てある。それて社會主義や無政府主義て假令道德的規範に就いて間接な意見があるとしても、それは直接に道德的規範の研究を唯一目的とする科學的倫理學の專門的意見によつて批判され、取捨さるべきものてある。殊に社會の文化生活の一切價値を作爲する條件たる意志の自由性及び當爲性を攻究して、人格的價値の普遍妥當性を規定する科學としては、倫理學以外にその任務を果し得るものは無いのてある。この意味に於て倫理學は自然科學の假說に對して、又は文化科學の規範に對して最も高次的な見地より最終の統一的規範として無上命令の價値を有するものてある。隨つて社會主義や無政府主義はその究極の統一的原理に於てはこの倫理學の無上命令によつて各自の學說を改廢しなければならない。社會主義者の中には唯物史觀的倫理學とか、社會主義倫學理とか云ふ勝手な名稱て倫理說を唱へる者があるが、それは誤解てある。倫理學は物理學と同樣に宇宙間を通じて唯だ一箇の對象に關する唯一の科學てあるから、幾つもあるものては無い。倫理學上より個人主義とか社會主義とか云ふ場合には單に學說の名稱てあつて、物理學ならば機械的自然觀とか不連續的自然觀とか云ふ學說の名稱に相當するものてある。

斯樣に宇宙間に唯だ一箇の實在たる道德的規範に對する科學的學術としての倫理學の上から見れば、人生の目的とか手段とか云ふものは抑も如何なるものてあるか。先づ最初に人生の目的に就いて考へて見るに、人間は人間としての資格を有つて居る。自己の主觀に於て客觀を統一する意志の必然的發展を有し、當爲の無上命令としての自由を體驗して居る人間の意識はこの意志の當爲と自由とによつて普遍的に演繹された經驗世界てあつて、主觀によつて客觀を統一した人格の世界てある。從つて人間の人格は經驗を超越した普遍概念と經驗の中に存する特殊的要素との合一した實在てあつて、意志の自己原因によつて自動的に自發的に行爲の價値を決定するものてある。そしてこの行爲の價値に於て最高次的なものが至善てあつて、人生の目的と稱せられるものてある。ところて茲に起る問題はこの人生の目的に於ける內容はこれを具體的に見れば何てあるかと云ふことてある。換言すれば人格活動の最高善とは抽象的概念てあるが、これを明瞭に說明すれば何う云ふ性質のものになるか。これに對しては古來の倫理學者が頭を惱ました問題てあるが、今日の科學的倫理學ては、人間の人格に具有する性能を發揮して、その可能性を實現することてある。換言すれば人間の人格に存する創造性を發揮して、人間の人間たる所以の資格を完成することてある。そしてこれは共通に萬人を通じて意思の統御に於て、無上命令として普遍的本務となるものてある。けれど

も、人間の人格といふものには主觀的方面もあり客觀的方面もあり、個人的方面もあり社會的力面もある。それて人格を具體的に見れば精神的方面、肉體的方面、社會的方面の三要素と爲すことが出來る。そしてこれは何人に於ても共通なる人格の普遍的形式であるが、各自の個人的境遇に於ては千差萬別てある。先づ各人は精神の内容に於て、肉體の内容に於て、社會の内容に於て、極めて特殊的な獨自的の構成要素を有して居る。即ち吾々の人格は人間として普遍的に律せられて居るが、個人として特殊的に律せられて居る。隨つて人間に共通なる人間の人間たる所以の普遍的本務は、個人の特殊的境遇に於て自己を限定して特殊的本務となり、この特殊的本務の實行によつて普遍的本務を實現することになるのである。そこて人間は銘々に自己の人格に於て人生の目的を有し共通の至善に對して共通の普遍的本務を有し、これを各自の境遇に於ける特殊的個性の發揮に於て實現すべきものである。これは人間が自己の生命に於て體驗するところの意志の必然的要求であつて、自己を原因とし、自己を目的として必然的に認識される直觀の流露である。隨つて社會の文化的生活に關する一切の人格的活動はこの人生の目的によつて至善の標準を明示されるものであつて、社會主義に於ても無政府主義に於ても、この倫理學的無上命令の規範に率由しなければならぬものである。

そこて人間はこの人生の目的を行爲に實現するに當り、如何なる手段に訴ふべきか。別言すれば人生の普遍的本務を個人の特殊的本務に於て實現する場合に、行爲の手段となるものは何てあるか。これを論定するには動機と結果との關係から考察して來なければならない。先づ吾々は行爲を決定するには、目的觀念といふものを描かなければならない。自己の爲さんと欲する意慾を志向の場面に於て、至善の觀念によつて選擇して、善的價値を意識したる上に、これを決定する行爲の結果を豫想して、その結果に對する善的價値を更に至善の觀念に遡つて評價しなければならない。更に言へ換へれば、吾々が道德を行ふには先づ行爲の動機に於てその目的が善いか惡いかを判斷して、然る後に行爲の結果に於てさうした手段は善いか惡いかを判斷しなければならない。何ぜなれば人格活動の行爲として評價される至善は一箇の全體に對する總人格的評價てあつて、人格活動の或る部分を切り離して成立するもので無いからてある。動機と結果とは行爲の有機的要素てあつて、その一を缺いて存立するものでは無い。動機のみあつて結果のない行爲はなく、結果のみあつて動機のない行爲は無い。二者は必ず行爲の屬性として必然的形式を爲して居るものてある。隨つて行爲の價値は動機の價値と結果の價値とによつて計量されるものであつて、善的動機と善的結果とを併せて始めて善行爲は成立するのてある。これは何ぜかと云ふに人生の目的と手段との有機的關係に原因して居る。目的なるものは必ずその内面的發展に於て手段を必然的に構成し、又手段は必ず目的が自己を限定して、普遍が特殊化したものてある。即ち目的の中に手段あり、手段の中に目的あり、普遍と特殊との關係に由つて一體を爲して居るので一箇の普遍者としての至善的實在が人格活動の上を徂徠する

に過ぎないのである。そこで至善を目的とした行爲は必ず又至善を手段としたもので無ければならぬ道理は自ら明にされる。

この意味に於て、『目的は手段を神聖とす』と説く倫理説は誤解である。これは何ぜ想像された誤解かと云ふに、道德は意志の自由によつて可能される事實に由來したのである。行爲の動機と結果との關係に於て、意志の動機が惡で結果が善であれば、その行爲に對しては善の意志がなかつたのであるから、それを善行爲として賞讃する譯に行かぬのは、自由意志の責任者でない理由に基いたのである。然るに意志の動機が善で結果が惡であれば、その行爲に對して善的評價を與へんと欲するのは目的觀念に於て意志の自由を有した責任者と認めるからである。けれども、これは目的と手段とを別々なものと誤解し、目的の中に手段あり、手段の中に目的の存することを知らぬ結果である。手段と言へばその中に目的が普遍者として自己を特殊的に限定して居るのであるから、これに對しても意志の自由が作用して居るので立派にその責任を問はねばならぬ。縱令その動機に於て有價値であつても、結果に於ける行爲の有價値を決定することが出來ないのである。これが科學的倫理學に於ける手段の意義である。隨つて社會の文化的生活に屬する一切の人格活動は、人生の目的によつて至善の標準から規定された正善なる手段によつて行爲を實現しなければならぬので、これは社會主義に於ても無政府主義に於ても率由しなければならぬ倫理的規範である。（續く）

京阪の私娼

曩に内務省では私娼の撲滅を期する爲め最近十箇年間の私娼狀況を調査する事となり犯罪人員數、年齡別、前職檢診の結果其他の調査を各府縣に命じたが大阪府衞生課の調査に依る明治四十四年から大正五年迄に於ける府下の私娼狀態は犯罪を犯せる者市部三六千十人郡部千百九十二名て其中大正三年四年五年は最も多くて大正三年には八百二十二名に達して居る之等を年齡別にすると十六歲迄八十一名、十六歲以上二十歲迄千百九十四名、二十歲以上千三百四十八名人、二十五歲以上七百六十九、三十歲以上八百六十八名て流石二十歲迄が一番多い檢診の結果は約三分の一は有病者其中半數は淋病三分の一は軟下病百分の五は梅毒症て計千二十九名といふ有樣て實に憂ふべき狀態である。

尙前職調では工場の職工であつたものが一番多く千八百三十八人て藝妓が七十四人仲居酌婦が二百八十九人遊藝稼人十三人料理屋待合の雇人二百四十九人娼妓六十二人其他千七百二十七人て其中料理屋待合の雇人から私娼になるものは漸次增加の傾向を示してゐるが反對に職工から私娼になるものは年一年減つて行く之れ等私娼になる原因は種種あるが多くは自分の墮落が原因して居る。

京都では

最近の警察部て調査したその數、年齡及び稼業年數別の統計に依ると府下全體に於ける藝妓數は市部千七百七十三人、郡部七百二十人、計二千四百九十三人て娼妓數は市部二千二百四十七人、郡部千〇十四人、計三千二百六十一人てあつて年齡別にすると藝妓の雛半玉が三十五人、十二歲から十七歲迄六百九十八人、十八九が六百十四人、二十歲から二十四歲までが六百二十三人、二十五から二十九が二百四十五人、三十から四が七十四人、三十五から四十まて七十四人、四十以上八十二人、娼妓の方は規則上無資格てある、十七歲未滿の者が七百九、十八九の娼妓が千六百二十三人、二十から四までが七百七て人二十五から三十迄が百六十六人、三十以上四十歲までが五十人四十を越した者が六人ある、然も之等娼妓の稼業年數は三年以上四百十二人、五年以上八十八人、七年以上四十二人十年以上の者が八人あるそうだ。

新マルサス主義を難ず

廓清會理事　高島米峰

□

新マルサス主義は、マルサスの人口論に基礎を置いたものであつて、所謂マルサスの人口論の要點は、人口は幾何級數的に增加するけれども食糧は算術級數的にしか殖えない、隨つて人間は漸次食糧の欠乏に依つて、非常な窮境に陷らなければならない。然るに、戰爭や貧乏や其の他の爲めに不自然に人が死ぬといふことがあるので、多少の調節が取れる譯である。卽ち戰爭や貧乏は、社會存立上必要なる自然陶汰であると主張するのである。從つて自由競爭でなければならないし、弱肉强食でなければならない。財產私有制度は認めなければならないと謂ふのであつて、社會主義や無政府主義の主張とは絕對に相容れないものである。

所がマルサス以後今日に至るまで人口は著しく增加して來たけれども、人智の進步は機械力の活用に據つて、生產方法に著しい發達を促し、幾何級數以上の速度を以て、食糧や被服材料を生產して、マルサスの主張を美事に裏切つて居ると云ふ樣な狀態でもある。日本の最近の事實から考へて觀るのに、米の高い時には、或はマルサスの主張が、道理であるが如くに感ぜられないでもないが、米が安くなると、マルサスの主張が、裏切られる樣にも考へられる。全體人口が非常に過剩するからと謂つて、その緩和策として、戰爭や貧乏や病氣を待ち設けて居らなければならぬといふは、可成り愚な事であると想ふ。マルサスに從へば、貧乏人が澤山の子供を產んで苦んで居るのは、自業自得だと突放して居るのであるが、其れを何とか救ふ方法はないかと着眼して、一種の方法を案出したのが、卽ち新マルサス主義の主張である。

□

新マルサス主義の主張は、バースコントロールに據つて、產兒を制限すると謂ふ事に歸着するのであつて、產兒を制限する結果は、種々なる利益を持ち來たすとして居るのである。その利益と稱するもの凡そ六七ケ條あるのであつて――(1)貧乏人の負擔が輕くなる。(2)姙娠分娩度數の減少は母體を健康ならしむる。(3)產兒少なければ敎育を完全に行ふ事が出來る。(4)生活に餘裕を生ずるから人の質が向上する。(5)早婚可能の爲めに賣淫の需要が減じて風紀が廓清せられる。(6)人

人口過剰の爲に生ずる國際戰爭を防止する。(7)出產率が低下すると同時に死亡率が低下する。——と謂ふにある。

試みに今此れ等の各項に就いて短評を試みて見様。

第一——子供が少なければ父母の負擔を輕減する事が可能であるといふことは事實である。然し親の愛は無限なものであつて、子供の多いと少ないとに依つて愛に輕重の變りはない、愛に輕重の變りがない計りでなく、經濟上から觀ても、長子の物を次子に與へ、次子の物を三子に讓るといふ様な便宜もあつて、存多實際に於ては融通もつくものであるし、それ程大した問題ではあるまいと考へる。

第二——姙娠分娩の度數を減少すれば母體を健康ならしむるといふことは、大體に於いて弱い人は子を産み得ないし、屢々兒を産む人は、肉體的に其れに耐え得る様に出來て居るのであつて、姙娠と分娩とが、肉體を衰弱せしめると云ふ事は否定する事は能きないけれど、その負擔に耐えない母體は自然の妙用で多產しない様に出來て居るのであるから、之れも理論上の問題としては兎も角、實際問題としては、所謂案ずるよりは產むが易いと考へる。

第三——子供が少なければ充分に敎育することが能るといふのも畢竟理屈であつて、子供が多くとも、父兄に志さへあれば、相當の敎育を施し得られないとは限らない。亦志がなかつたなら、唯だ一人の子供をも猶ほ敎育せずに仕舞ふかも知れない。酒を飮む人の酒代や、煙草を喫む人の煙草代は、如何なる方法かに依つても辯ぜられるのであるが、それ等の人が酒を禁め煙草を禁めたからとて、夫れ丈けの費用を餘し得るとは限らない。子弟の敎育は、要するに志の有無を第一とし、金錢の有無は第二義的なものだと考へる。

第四——生活に餘裕あれば、人間の質が向上するといふ事も單なる理論であつて、實際の場合には必ずしも幷うなるとは限らない。有福な家庭から不良青年や不良少女を多く出すと同じく、華族や富豪の家庭から、本質的に愚劣な人間を出すことも尠くない。公家や大名の子孫から、因習的裝飾を取り棄てゝ素裸體にして仕舞つたら、何んの取り柄もない者が多くは無からうか。その點から觀ると、政府からは睨まれ一部の人からは嫌はれて居る社會主義者であるとか、勞働者であるとか卽ち生活の餘裕の無い者にも、本質的に優良なものがないとは言へない。

第五——早婚可能のために、賣淫行爲が減少するといふことも十分に考慮の餘地がある。元來結婚の目的は、戀愛の滿足と子孫の優良と、繁榮の爲めの、人格的結合でなければならぬのであつて、單に戀愛の滿足の爲めのみの結合であつたなら、半ば以上の意義を失つた結婚であると言はねばならぬ。若し人、子孫の繁榮を度外して、肉慾のためのみの結婚であるなら、夫れは所謂賣淫と何れ丈けの相異があるのか。名を結婚に藉りて一種の賣淫を行つて居るのではないのだらうか。又產兒制限を條件としての早婚に依つて、風紀が廓淸せられるといふことも甚だ疑問である。青年男女の間の風儀は、姙娠を惧れると云ふ消極的立場からも行はれて居るので

あつて、若し妊娠しないと云ふことを確かに保證せられるならば、青年男女の肉慾の滿足を求むる事益々甚敷く、風紀は反つて非常に紊れて來るに定まつて居る。寧ろ賣淫制度が、一種異つた形を採つて、安價に便利に提供せられるといふ事になるのではなからうか。

元來、眞に親たり得る實力と事情とを備え得るまで、性慾を壓へて、結婚を見合せると云ふ丈けの、自制力を持つところの青年男女にして、始めて自己の完成の爲めにも、子孫の優良繁榮の爲めにも、貢獻し得るものであつて、寧ろ夫は、人間當然の責任でなければならぬと思ふ。

●第六●――人口過剩の爲めに國際戰爭が始まると云ふ事も事實である。殖民地の爭奪といふやうなことから、國交斷絶することもあるのだから、人口の少ない方が、自分の領土内で始末が付くのだから、國際的紛議を生じて來ない譯である。然し一家族の上て考えて見ても、家族の少ない家は、單に淋しいと云ふ計りでなく、總てが消極的であつて、退嬰的であつて、保守的になつて、向上進歩發展といふことは望んで得られない事になる。人多くして茲に始めて努力しなければならぬ、奮闘努力といふ精神を喚び起し、努力奮闘の結果として、开處に向上進歩發展がある。

一國としても、次第に人口が減じて往くといふことは、次第に國の衰運を招くものであつて、人口の增加といふことは、興國の氣内に漲り外に漏れると看るべきである。國際戰爭の如きは、各國民の自覺に依つて、或は軍備を撤廢すると云ふ樣なことに據つて、將來必ず無戰爭常平和の時代が來るべきものと考えられる。人口の增減といふことから全く超越して、●將來の世界は平和なるべきものでなければならぬ。

●第七●――出產率が下れば死亡率が下ると謂ふ事は多少の關係が無いとは言へない。多く產めば多く死亡し、少なく產めば少なく死ぬのは當然である。

理想的に言へば、多く產んで少なく死ぬといふことであるが、亦子供が少ないから必ず强いとは限らぬ。一人の子供を育てるにも、一々親の盲目的愛の爲めに、存外其の結果の宜敷くない場合もその例に乏しくない。衰弱した人間が活きて居てその爲めに死亡率が下つたとしても、新マルサス主義の唱ふる本質的改造ではない。醫術が進歩すれば、當然死ぬべきものが、活きる場合もあるのであるから、开ういふ意味に於て死亡率が下ると云ふことは、内容的に言へば、餘まり喜ぶべき事ではない。

前にも言つた如く、多く產んで、死亡者が尠なければ所謂子孫の繁榮と謂ふ事が望まれるのであつて、之れが尤も望ましいことである。然し之れが多產の結果、種々なる差し支へが生じて來るといふなら、その差し支へを除くといふことは、國家の當然の責務であつて、或は衞生上から、或は保健上からも、托兒所、健康相談所その他の國家機關が、遺憾なく整はなければならぬことであると考える。

□

以上の七ケ條に、假りに百歩を讓つて、悉く新マルサス主義の主張者の言ふが如き理由があるとしても、然かも猶ほ吾等は之れに贊同することの可能ない理由を持つて居る。

第一新マルサス主義の主張は、經濟論のみの上に立つて居るのであるが、經濟は唯だ僅かに人生の一面てあつて、人生の總てゞはない。戀愛も人生の一面てあるし、宗敎も人生の一面てあるし、藝術もまた人生の一面てあれば、道德も同じく人生の一面てある。唯だ僅かに經濟的一面の解決を着け得たとしても、人生全體を率いてゆくといふことは困難てある

此の複雜なる人生の根本基調を爲して居るものは何てあるかといふに、靈的活躍て即ち道德及び信仰てなければならぬ、戀愛も藝術も、總べて此の基礎の上に立つものてなければならぬ。

不健全なる經濟思想、夫等に依つて哺くみ育てられた處の盲目的慾望、利已的觀念が或は滿鐵問題となり、或は阿片問題となり、或は瓦斯問題となり、また或は砂利問題となり、或は脫稅或は詐欺、或は横領、或は背任、今や人心の腐敗が色と慾との二途に、馳けて、滔々として、底止する處を知らない。其れ故、人生の諸問題が單に經濟の一面から觀る事の誤りてあることも、之れに依つて解るてはないか。

然るに、新マルサス主義の主張はこの曖昧な思想の上に立つて居るのてあつて、吾等は到底之れに共鳴することは可能ないのてある。

□

第二に、新マルサス主義の主張を、社會政策の上から考へて居る者もあるが、夫れには相當の理由あるものと認めなければならぬ。

元來、政策は人間の福利を目的とすべきものてあつて、人間が政策の犧牲になつては堪らない。新マルサス主義を社會政策として考へる事は、差し支へないけれど、上來述べ來た如く、人間の福利が夫れが爲めに犧牲になるといふ點からも吾等は反對すべき理由を持つて居るのてある。

□

第三に、優生學上から、新マルサス主義を鼓吹して居る人もある。これにも相當の理由はあるが、しかし、避妊といふが如き、不自然を作爲までして、到達し得る優生學的効果は、他の方法に依つても、得られる道は無いてあらうか。飮酒が、飮酒家その人の身心を傷ふばかりてなく、その子孫の身心を傷ふといふことは、最早、何人と雖も、これを否定することが出來ない事實てあり。若し、人、この自然の方法たる禁酒を斷行するに於ては、避妊といふが如き、不自然なる方法を用ゐるより以上の、優生學的効果を收め得ること、甚だ容易てはなるまいか。

□

他の方面から考へて見るのに、動物でも優等なものは兒を產むことが少なく、植物でも優等なものほど花が少ない。盆栽家の經驗に依ると、梅に花を持たす場合には、此れに肥料

を與へないばかりでなく、夏季には根を日光に乾す事を必要とすることもあるといふ。斯ういふ自然界の現象を、直に人間に適用するといふことは、多くの考慮を要することだけれど、貧乏人の子澤山と云ふ様なことが、或は榮養不良、生活劣等と考へることに、多少の理屈がないのだらうか。

若しその間に、多少の理由を認め得べしとするならば、産兒制限に腦漿を使ふ前に、如何して榮養を充分に攝り、如何して生活を向上させるかを考へなければならぬ。开うなると萬人が力に應じて働き、必要に應じて分配を受けるといふ、生産分配の組織を新しく作るといふ、社會主義の主張に、多くの理由あることを發見する事になるかも知れない。然し、僕は更にもつと、根本的な問題を擧げて、新マルサス主義主張の斷じて、許すべからざる所以を力說したいと思ふ。

□

吾等は何一つ創造仕出す力を持つて居らぬ。基督敎で謂ふなら、諸々は神に依つて造られたといふのであるし、佛教で言ふなら、因緣所生と謂ふのであつて、人間の力で何うする事も可能ないのである。

若し吾等が兒を産むといふ事の自由を持つて居るなら、之れを制限するといふ自由も當然持つて居るのだけれども、兒を産むといふことは、神の力であり佛の業であつて、人間の力で如何ともすることは可能ないのであつて、旣に産む事の自由を持たない人間が、産まざる事の自由を得樣と爲るのは甚だ我儘勝手な申分では爲からうか。否、旣に神事佛業であるこの神祕な問題に向つて、人間の私を交へると云ふことは、甚だ潜越な事であつて且つ頗ぶる恐るべき事ではあるまいか。

自分は此の立ち場に立つて、斷々乎として新マルサス主義の主張に反對せざるを得ないのである。唯だ除外例として、惡疾、精神病者等に、此の非常手段を用ゐるを、止むを得ざることゝして悲むのである。(講演大要)

アダムの富

▲通說に從ひアダムが紀元前四千年の昔に生れたとし現在まで生きてゐるとすると大凡六千年になる▲此六千年間アダムが一週十志の貯蓄を根氣よく續けたとすると現在アダムの財産は十五萬六千磅となる勘定だ▲詳しく云へばビロニア帝國の出來た時にアダムの財産は五萬二千磅モーゼやソロモンの時代には七萬八千磅、紀元前七百五十三年羅馬帝國の勃興時代には八萬四千四百二磅となる▲紀元前四百卅年に歷山大帝が帝位に卽いた時になつても羅馬建設以來アダムの增した財産は僅に一萬千百八十磅に過ぎず、ナザレのイエスが生れた時は十萬四千磅しか貯つてゐない▲此割合でゆくとアダムが百萬長者になるには四萬年もかゝる譯だ▲處が年五分の複利で一週十志宛貯めると六千年間には二萬二千八百十一といふ數に零を百廿二付けたゞけの磅に上る▲これだけ金があれば英國の現財産は大凡百五十四億萬磅だといふが是を買つて歐羅巴を買つて地球全體を買つて而もそのお剩餘て人間の住んでゐさうな星世界が五つ六つ買へるさうだ▲之は英國の獨立勞働黨の機關紙に載つてゐた話てあるが此計算から引出した結果が面白い▲僅か五分でも利息の利目は恐ろしい、成程途方もない金持と稼いでも稼いでも碌々に食へない貧乏人とが世の中に存在する譯である。

最近に於ける朝鮮事情

東亞經濟會理事長　板橋菊松

思想が險惡となつた。又少數ではなるが、民族自決が金科玉條として彼等の眼に映じたる爲め、その意氣込みが頗る盛んである。此際今少しく振興策や開發策を講じなければ、朝鮮人も内地人も不幸であり、行詰りてある。總督府でも從來統治にのみ精神を傾注して、實際の經濟調査の方は一向駄目てあつたのである。

大正八年九月齋藤總督、水野政務總監等が來られて、文化政策及内鮮人融和の意味から、第一着に從來あつた會社令を撤廢した。從來會社を設立するには許可を要した。そして假令許可を受けても、種々なる拘束があつて遣り惡くかつたがそれを撤廢して自由に且つ遣り易くした。又鮮人拔擢をも勵行した。然しそれ等の革新も、朝鮮問題の根本に充分觸れて居らぬから、その振興策は駄目であり行詰りてある。尤も鮮人千七百萬人の多數は政事に關係せざるが故に、民族自決を主張したる者は、前にも申す通り一部の少數である。次は獨立は出來ないだらうが内地人が優勝者の地位に立つて、空威張りに威張るから手を握らぬと云ふ者てある。其次の第三は時勢が今日の如きに至しめたのてあるから、鴨綠江から此方は手を握らねばならぬと云ふ者てある。兎に角内地人は朝鮮

□朝鮮の文明的政策

、冷靜沈着なる態度を以て朝鮮を見るならば、經濟其の他社會の諸方面に於て、種々矛盾錯綜の點があつて、内地より來りたる人の之を觀察する知識が、餘りに低級であり不充分であるのに飽き足らぬのである。齋藤總督は文化的方針の宣傳に骨を折つて居らるゝが、偶々吾人と意氣相投合して、同主義の下に宣傳し得る事を喜びとする者である。齋藤總督は固より全智全能にあらざるも、兎に角文化政策を執り、現代式に依つて、統治に努力し居らるゝのである。之に對する朝鮮人の心持ちは何如てあるか、果して好感か惡感か、將た險惡なる思想か、それは精細に觀察する必要がある。朝鮮は我が内地と一衣帶水て、古來種々なる交渉のあつたことは歷史の示す所である。日韓併合以來、内地人が續々朝鮮に入り込み目下三十四五萬人住んで居る。それに朝鮮人は千七百萬人居るのであるけれども、全體の面積よりすれば密度が貧弱であるが、鐵道敷設等の爲めに從來に比し、澤山の住家が出來たのである。又現今は十年前と異なり、内地人が朝鮮に現金を資本として放下しても、直ぐにその資本が活きて巨利を博すると云ふ譯には行かない。一昨年朝鮮獨立萬歲以來、鮮人の

人の權利自由を重んぜなければならぬ。例ば朝鮮人が銀行から金を借らんとしても、銀行の人々が彼れはヨボだから仕方ないと云ふた如き、無禮なる思想と態度は謹むべきである。獨立は美名であつて勇ましいが、朝鮮人が果して眞に獨立し得るか、沈思して見るならば大なる疑問である。それ故に私は此事を遠慮なしに打明けて鮮人と懇談するのである。米國人はおせつかいて、假面を被りたる人道主義を唱道する。チェック・スロバックの獨立に金を貸して、野心を看破せられたる米國の民族自決論は、近時影薄くなつた事を私は斷言して憚らぬのである。米國の仁義は眞の仁義てなく、己れの爲めの仁義てあり己れの爲めの自決論てある。由來内鮮人の眞の意味の合同は自然的てあり且つ其の力を强大にするのみならず、東亞振興上の一大使命てある事を知らねばならぬ。

□寒心に耐えざる内地人

又鮮人の内、獨立は出來ずとも、日本以外何處かの國に賴ると云ふ者がある。露骨に云ふならば米國に賴ると云ふ事になる。然し米國は前にも申す通り野心があるのであるから、當てにならぬ、所謂野となれ山となれ主義の國である。次は日本と手を握るならば、今少し何とか出來さうなものだと云ふ感じてある。私共にも其の感がある。一例を擧ぐれば私は一度朝鮮の地を踏めば、内地に於て依然兵役納税の義務を負はせらるゝに拘はらず、參政權はなくなるのである。吾々は決して參政權を濫用する者てないけれども、朝鮮治安維持の爲め、又開發の爲め、吾々は義務のみを負擔して權利を主張せぬ。然し此事が永く續けば、不平を訴ふる樣になるであらう。さりながら概して朝鮮の經濟教育等の方面が、内地に比して發達せざる事は事實てある。それは統計に由つて證明する事が出來るのてあるから、吾々は衆愚のデモクラティックを排斥せなければならぬ。即ち實力の伴ふデモクラティックてなければならぬ。又朝鮮に住む鮮人の學歷ある青年及内地人は、内地に居る人と其の能力や人格は格別違ひはない。私の會社には鮮人の事務員と給仕を使ふて居るが、現に内地人と格別の差違がない。然るに内地人が妄りに鮮人を輕蔑すると云ふ事は、甚だ不可ない事てある。

或る人は鮮人は忘恩てあり、又約束を守らぬと云ふが、それは李朝の時代に徵税が誅求的てあつて非常に苛酷の惡政を施した。それ故に鮮人一般の心理狀態がひねくれてゐるに相違ない。隨つて家屋の如きは富豪と雖も、甚だ貧弱てあつて防寒を專一にしたる陋家に過ぎないものてあるから、外見からは、とても金持ちの家とは見れぬのてあり又見えぬ樣にするのてある。日本内地は鐵道沿線より眺めても、大農小農の區別が其の家屋の構造に依つて判別し得るのてあるが、朝鮮は釜山より京城、京城より新義州の間、農家の大小の區別を家屋に依つて判斷する事は出來ぬのてある。元來内地人が鮮人の缺點や短所のみを見て國民性と云ふは無理てあり不公平てある。又或る人が傘を鮮人に貸して、十五日經つても二十日經つても持つて來ぬと呟くけれども、内地人にも往々さう云ふ例はある。又或る辯護士は、鮮人が汽車に乘つて、失禮とも云はず人の毛布の上に座るのてあると苦情を吐くが、然し現に私が下の關より一等室に乘りたる時、肥大なる日本人が無理に西洋人の間の狹き空席へ割り込んだ實例を見た。況んや二等室や三等室では。何の位も例があるに相違ない。兎に角鮮人を輕蔑して妄りに小言を云ふならば、彼等は碎き人間として生きる事を得ぬのてある。又私が或る時京城の本町通りと申す所、東京の銀座の如き所に行つて

見ると、內地人の店員が一人の鮮人は毆打つて居るのを見たので、何う云ふ譯かと尋ねると、その鮮人客が店を冷かして何も買はぬからだと云ふ。是等は實に鮮人に對し甚だ無禮であつて、其の感情を傷むることは頗る大である

□眞の融和と朝鮮振興策

又先般私の友人が私に泌々と感じたる如くに話すのに、「成る程朝鮮人に不平あるのは無理でない。私の家內が、鮮人は其近頃生意氣で橫着で、値引せなくなつたと云ふから、私は其の方が正當て宜しいてないかと申した處が、家內が答へて、「それてもヨボですもの、値引るのが當然てあると申した」との事てある。斯く內地人中の知識階級にも、此差別的觀念を有する者が多數てある事を識る事が出來る。又例の本町通にある內地人の商店へ、鮮人が行つて値切るので、近頃非常に生意氣になつたと商店の人々が憤慨するのてあるが、吾々は母國民として大に考へなければならぬ。今の遣り方ては、鮮人は內地人に對し好感を有せず、昔の李朝時代の方が、却つて宜しいと思ふに違ひない。李大王薨去せちれた當時、民族自決に目醒めた者を、一概に不逞鮮人と云ふべきてない。內地人が誠意を以て鮮人に對するならば、妄りに獨立を希望せぬてあらうと思ふ。又文化政治をやつても、確乎たる治安維持の方針を建てなければ、內地人も恐れて入らぬのてあるから、此點に就き相當の留意を要すべきは勿論である文化的敎育に就ては、澤柳、平沼、阪谷の三博士を招聘して、敎育に關する一切の調査を委託する事となつて居る。又私は經濟的眼孔より朝鮮の現狀を察觀するならば、產業政策としては、その施設が不充分てあつて、何となく物見ちぬ感を抱くのてある。又內朝融和と云ふ事は一つの流行となつて、今は內鮮融和屋が諸々方々に出來て、如何樣者が澤山にある。そして朝鮮にも、內地殊に東京にも夥しく居るのてある。又鮮人が日本人に對して、誠實に胸襟を開いて不審の點を尋ね、不滿足の點を訴ふべきてある。そこに眞の融和が起るのてある又朝鮮青年聯盟は近き內に出來るので、亞細亞經濟協會が此聯盟に關係して居るのてある。從來の內鮮融和論は舊慣に依る所の者多くして、駄目てある。齋藤總督の文化政治は相當に遣つて居るが、此內鮮融和の根本策たる具體案が、未だ立派に出來て居らぬのてある。

英國の植民歷史を繙くならば、色々の事を學ぶのてある そして朝鮮の事を考ふる時に、幾多の暗示を受くるのてある 朝鮮は土地大にして人少なく、金もない。此人と金がなければ、植民政策を充分に施す事が出來ぬのてある。是が出來れば振興策の第一義が備はつたのてある。卽ち內地より人と金とを入るゝ事が肝要てある。若し此儘にして四五年過ぎ行くならば、經濟的に行詰りとなるのてある。臺灣には砂糖とか樟腦とか、幾多の產物はあるが、朝鮮には人參位のものてある。又朝鮮には未墾地が二十萬町步あり、一般に經濟的貧弱の國柄てある。私は特に政府者及財界の巨頭に願ひ度き事がある。總督府の豫算には、限りがあつて思ふ樣の施設は出來ぬから、政府者及財界の巨頭に了解を求むるのてある。先づ第一に產業開發の爲めの鐵道に充分金を出す事てある。若し今日の儘てあるならば、諸君の內五千圓又は一萬圓の金を持參して、相當の利益を得る考て朝鮮に行くと云ふ人あ

らば、私はそれは無駄であり、居喰ひになるから、暫時見合せられん事を御忠告致したいと思ふのである。

□産業政策と鐵道敷設

從前ならば内地に五十圓の費用が掛るのが、朝鮮では二十五圓さへ掛らぬと云ふ關係があり、又收入の方でも、俸給の外、在鮮手當を貰ひ、又鑛山の權利を得る事が出來たのであるが、今は一般に物價騰貴て生計費が嵩むのみならず、隨分不自由てある。若夫れ廉價の物に至つては、米、鷄卵、牛鳥肉等てあるが洋服の如きは之に反して、一着に付東京に比し二十五圓位高いのてある。此事に就ては、京城の三越支店員が明言して居る所である。そして今年京城にてニユースタイルと持て囃されて居る所のものは、東京の昨年の舊スタイルて、最早陳腐に屬して居る所のものてある。又今は朝鮮の鑛山の權利の如きも容易に得られぬ。今より二十年前より朝鮮に至る所の鑛山に至り、鶴嘴を以て其の鑛石を缺き、熱心に尋ね歩いた人があつた。然し却々見付からぬので、漸く北鮮咸鏡北道に於て、鐵山を發見し、幾分の利を得て三菱に賣り付けたと云ふ話がある。今日ては一層見付からぬのてある。又朝鮮は冬は非常に寒く、夏は非常に暑い。が朝鮮人は此郷土を愛する愛着の念が強い。彼のエスキモー人が嘗て市俄古の博覧會に出た時、金殿玉樓の如き立派な室に優待せられたのてあるけれども、逃げて仕舞つたと云ふ話がある。又櫻島の住民も、あんな悲慘な噴火があつたに拘はらず、其の後故郷を慕ふて、再び故の部落地へ還つたさうてあるが、是即ち人間の至情てある。兎に角朝鮮の事は、政府自身が先に立つて此國土の爲めに圖らねばならぬ。そして相當の順序を履まねばならぬ。今より水産其の他の發展を注文するのは無理だ。先づ鐵道の敷設が最急務てある。第一、治安維持の上から非常に緊要てある。又産業振興の端緒てある。昨年四月以來財界恐慌の爲めに、諸工業も私設鐵道も破産したるもの續々あり、彼の藤山雷太氏の經營せらるゝ鐵道會社も解散になつた。それ故に私は、此緊要なる私設鐵道には何うしても一、二割の補助金を出す樣に政府當局者及財界の巨頭に要求するのである。先代の總督府の幹部では、口癖に鐵道を拒んだのてあるが、それてはいけない。何うしても拓殖的鐵道の心掛けが無ければならぬ。米國の異常なる發達は鐵道の敷設を急ぎたるに由るのてある。即ち鐵道政策が完全に行はれたからてある。若し朝鮮の鐵道政策が立派に出來て、第一期第二期が定りたる以上は、私は諸君に何卒お出て下さいと進んで御案内したいと思ふ。諸君は朝鮮を我が内地の延長として、又新附の同胞として徹底的に諒解し合ふ事が肝要なると同時に、大に侮辱的態度を戒めなければならぬ。又私は朝鮮人にも苦言を言ふ。吾々は平等を主張するも實力本位てある。其の點を注意せなければならぬ。鮮人が一視同仁を濫用するのも不可ないと思ふ。要するに經濟上より見たる内鮮人の融和及産業發達は非常に大事の事であるが、其の端緒が鐵道敷設にある。そして本國としては物質上又は金錢上何等の報酬を得られぬものなる事を知悉し、絶大なる抱負を有し、雄偉なる經綸を建つる覺悟と決心がなければならぬ。(講演大要文責在記者)

人類再生の秋に際して

代議士 中野正剛

西伯利出兵と步哨事件

議會に出席して、原首相始め諸大臣の施政方針に關する演說を聞いたが、何れも一向國民生活の大問題に觸れて居らぬ。唯一つでも根本的要點を摑むなら、宜しいけれども、肝要なる動機を重心なして動いて行くのであるから、何等徹底を見ぬのである。昨年西伯利に於て、尼港に我が七百名の同胞が慘殺せられた事件や、其の他西伯利出兵問題などに對しても、何等言及して居ない。又近くは我が軍隊の步哨と、米國士官との衝突事件などは、事小なるが如きも、その關係する所大なるに拘はらず、何等陳べて居ない。聞く所に依れば、米國士官が我が步哨の發砲命中の爲め、死亡するや、我が政府は直ちにその步哨を軍法會議に付し、一面米國に對し陳謝した處が、米國は陳謝のみに滿足せず、西伯利に於ける我が軍事行動を制限せよと持ち掛けて居るとの事である。予は最近に旅行して、西伯利、北滿、朝鮮等を跋涉したのであるが、哈爾賓の遊園地に、我が忠勇なる兵士が自動車の運轉手となり、氷點以下三十二三度の寒風凛烈たる屋外に、銃劍を手にして立つて居るのを見るのである。そして其の自動車に乘り來りたる將校等は、直ぐ前の遊廓なり料理屋なりに登樓して、溫暖なる室内に於て酒色を貪り、淫樂に耽り豪奢を極めて居るのである。若夫れ此將校と兵卒を對照し來るならば、その苦樂の差天地霄壤も啻ならずして、予盾の甚しきに驚くのである。

予は西伯利出兵問題の無意味なる事は幾度も陳べたが、内閣も軍閥も、時に依つたら烏拉爾以東位、さもなくば沿海州薩伽嗹州位取れるであらうかとの、妄想を抱いたかも知れぬ。兎に角堂々たる確信がないのであるから、一定の國是とも云ふべき方針が立たぬのである。米國も却々圖々しき國である。革命露西亞と共謀して、日本の野心ある事を仰々しく宣傳する。米國の政策は極東に於て、西伯利、支那を操つり日本を壓迫せんとするのである。嘗て米國の外交官モリスが、杖一本でやつて來た。我が司令官が他の急用ありたる爲め、副官を代理として出迎ひに出したが、モリスはそれが氣に喰はぬと云ふので、歡迎會に出席せぬと頑張つたが、漸く陳謝慰撫して宴會に出て貰ひ、款待優遇至らざるなしと云ふ事であつたさうである。是れは軍閥の頭目から命令が來て居り、何んでもかでも、米國人を大切にせよとの嚴重なる御達しを受けて居るからだとの事である。

＝陳謝に敏活なる外交＝

又彼の步哨事件の事を考ふるに、步哨は軍規を守り留律の通り誰何した。如何に氷點下三十餘度の所でも、大和民族の血は氷らぬ。小なる軍人は小なる敵愾心を有して居る。然るに米國人は、此大和

民族を猿と稱して居る。實に無禮も甚しである。斯く個々の兵士は立派の者であるが、軍隊全體としては國民の承認せざる出兵であり、又世界の承認せざる出兵であるので、そこに一つの弱點がある。兎に角此大和民族たる歩哨が一發發砲したと言ふ事は、甚だ愉快に感ずるのみならず、如何にも人間らしくて非常に痛快に感ずるのである。出兵が堂々たれば後援者があるから宜しいが、それがないのであるから、政府側では非常に狼狽して、幣原太使に訓電した。同大使は其の訓電に依り、該事件發生の翌日直ちに米國政府へ出頭して低頭謝罪をして居る。何んと謝罪に敏活ではないか。是に就て聯想するのは支那である。支那は却々容易に頭を下げぬ。彼の尼港事件の際、支那軍艦が我が軍隊に發砲したので、我が政府は支那官憲に對し、其の不法を難詰したけれども、支那官憲は事實取調べの上回答すると申して、容易に陳謝などせぬのである。

然るに我が國は歩哨事件のために、餘りに速かに平身低頭陳謝したと云ふ事は、如何にも意氣地のない事である。米國ではだん／＼圖に乘つて、種々なる要求をなし來るのである。又英國のノックス少將が、一昨年の秋北滿に於ける我が軍隊の鐵道に乘つた。軍服でなく平服であつたものだから、我が陸軍大尉が彼れを誰呵した所が、此ノックスが非常に怒つて、此大英國のノックス少將の顏を知らぬかと、散々に罵詈讒謗を加へた。此事がだん／＼話が大きくなり、英國にある田中陸軍少將は、態々英國陸軍省に出頭して謝罪するやら、日本第一の珍田大使が悲鳴を擧げて「此際英國の感情を害ふならば、英國政府が之より開かるべき講和會議に於て、我が國を助けぬと言ふ場合であるから、宜しく賴む」と云ふ電報を我が外務省に打つたとの事である。今回の歩哨事件に對する態度も推定する事が難くないのである。

空虛なる教育に活ける教育

米國が我が國に對し、西伯利より撤兵せよと請求し、吾之に應ぜぬと假定せよ米國政府當局者は必ずや「日本の軍隊は

我が軍人にすら、斯く亂暴の事をする。況んや露支に於てをや、其の亂暴さ加減は察するに餘りある云々」と言ふに違ひない。背景は大である。支那及露西亞を彼れの味方とする事は、誠に日本のために痛恨事である。日米戰爭などは、暫らくの間なからんも、我が國は他の商業戰其の他の平和的戰爭を以て、攻擊せらるゝのである。又衆議院に於ては未だ西伯利問題及尼港問題等を、根本的に又徹底的に考ふる議員は誠に尠ない。又原總理大臣の演說には、例の產業、教育、交通、國防の四大政綱を敷衍して、一段落付きたる如く吹聽したるも、何等根本問題に觸れて居らぬ。能くもあゝ云ふ寢言を言はるゝものであると感心するの外はない。產業は內外に危き有樣である。國際市場も行詰りてある。そして資本家のみを救濟するのである。教育は歐米殊に獨逸の如き戰敗疲弊の國ですら、十八歲以下の者には八年の普通教育と二三年の補習教育を無月謝でやる事になつて居るのに、我が當局者は此點に考慮を費さぬ樣模である。

又教育の根本主義は教育勅語にありと

云ふも、時勢に應ずる活きた教育を施さなければ、教育の大目的を達する事は出來ぬ。予は屢々田舍に講演に行くのであるが、其の際學校長が最初教育勅語を捧讀するを常とする。其の刹那は會衆が最も嚴肅に緊張すべき筈であるのに、實際は然らずして、形式的に頭を下ぐるに止り、惰氣滿々と云ふ風である。そして捧讀終るや、咳の競爭會が始るのである。是れは實に慨歎すべき事であるけれども、實際の事實である。精神的教育は實に空虛である。又鐵道を延長するのに其の延長地と政府黨の所在地と完全に符合する。輕便鐵道の國庫補助も同樣である。又鐵道の運賃が、最も不景氣となつた時期に値上げせられて居る。斯く總ての方面を觀察し來るならば、好結果として一段落を告げて居るのでなく、葬式としての一段落を告げて居るのである。又從來大西洋より大平洋に至るには、非常に迂回するために、數十日を要したのであるが、若し彼のパナマ運河を通過するならば、一晝夜ならずして大平洋に出づる事が出來るのである。之も考慮の價値がある。又我が國には八八艦隊が出來ても、米國には際限なく出來るのであるから、一段落など云ふ事は到底駄目である。獨立的見識と確信の動機は何もない政府當局者に對し、其の無智を憐むに遑あらずして、其の不信を惡まざるを得ぬ。又尼港前後事件費八百五十萬圓、アレキサンデリヤの道路修繕費七百萬圓の豫算を掲上してあるが斯くの如き莫大の金を費すべき價値ありや否や、大いに考慮研究を要すべき事柄である。

‖撤兵斷行根本的理想‖

又政府黨に對する野黨各首領の宣言主張も、一向其の動機の重心がない。西伯利撤兵を說きながら、支那の赤化に干涉せよと仄めかす者がある。軍國主義を呪ひながら、朝鮮壓迫の足らざるを嘆ずる者がある。產業立國の主義を說きながら、對露通商に觸れぬ者がある。彼等の主張は問題に應じて、亂調子に變化する。毫も各問題を一貫する根本理想が見當らない。畢竟我が國民には甚だしく個性の影が薄い。又支那では各省を自治にし、知事を民選にする事を企てゝ、甚だ立派の事である。然るに我が政府及び軍閥は較もすれば反對の行動を執らんとするのは、以ての外の事である。又カイゼルは嘗て「世界の將來は海に在る。そして外交上の問題は、海に依つて決せねばならぬと」申したが、實際穿ち得たる言葉である。又考ふべきは濠洲に於て、既に差別的關稅法を施行した事である。其の他之に類似の事實が、他方面に於て、頻々として吾等の目前に顯はるゝのである。總て米國の政策は我が日本を孤立せしむるために、極力企畫しつゝあるのである。

又哈爾賓は從來露國のものであつたが、今は支那のものとなつた。米國はその中に立ち、巧妙なる手段を以て、露支兩國の歡心を收攬する事に努力して居る。彼の露の東支鐵道を甘言以つて支那に還さしめたるが如きは、その一例である。露國は實に一億七千萬の人口と、地球上七分の一の地域を有して居る。吾人は此國土と國民を深く重大視せねばならぬ。見よ鐵道は今や滿洲里まで開通した。黑龍鐵道を通じて、浦潮にも歐露の郵便物が來る。レニン政府が、徒らに人民を餓えさして居ると思ふは、偏見の甚だし

きものである。吾人は國家唯一の活路を西亞利を通じて露西亞に開拓せねばならぬ。今日好機を逸せば、必ずや噬臍の悔を貽すであらう。國是なく、確信なく、動機の重心なき西伯利出兵を撤退する事は今日の急務である。

＝我國の眞の使命＝

ハイカラ式の講談者流は、此際強いて冷靜を裝ひ、さかしげに自ら慰安する。曰く日本人はそれほど駄目でない。今に一大困難に遭遇すれば、必ず自覺すると、第三者の立場に居り、民族永遠の消長を觀測したら、或ひはさうかも知れぬ。然し國難に遭遇して撥ねかへす國もあるが、それきりに倒れる國もある。一度倒れても數世紀の後には復活することもあらう。併し國運を蹉跌せしめて、數世紀も起つべからざるに至らしむることは、子孫に對して相濟まぬことである。獨逸、露西亞、墺地利等は何れも國難に遭遇して、非常の苦しみを受けて居る。あの程度迄に子孫を苦しむることは、吾人の忍びざる所である。新聞の報ずる所に依れば、獨逸の代表者スチンナスが、巴里聯合國會議に於ける聯合各國に對する獨逸の賠償決定額が二千二百億馬克の巨額なると、要求の頗る苛酷なるに驚き、恰も牝牛の乳を搾り盡して、其の上、首を強く締める様のものであるから、何とか緩和の途を講じて貰ひたいと、哀求したさうであるけれども、聯合國の代表者は、何れも一顧をも與へぬとのことである。戰敗國の負ふべき悲慘なる重荷に對し、吾人一滴の涙なき能はずである。

予は數年前西班牙に遊べる事あり。歐洲大戰のために、此國民が如何に上つ調子になり、浮華遊惰淫逸に陷つたかは、實に驚くばかりであつた。最近に同國より歸り來りたる友人の話に由れば、大戰終熄后、經濟界の大變動大驚慌の爲めに、一般國民の元氣甚だしく沮表し、實に火の消えたるが如き有樣であるとの事である。日本人は此西班牙人に能く似て居る所がある。大いに反省警戒する所がなければならぬ。又日本が三千年の麗はしき歷史を有すればとて、列國はこれを除外するに寸毫も躊躇しない。要は國民の努力にある。壓倒するには餘りに強力にして、相交れば非常に貴重なる國民となることが、國家存立の要件である。世界の小民族は悉く獨立し、獨立して各々黃金社會の一員たらんことは最高の理想である。其の時代には愛蘭問題も朝鮮問題もない。唯だ是に到達すべき道程は、悲風慘雨に滿ちて居る。日本人は現に我が國を襲ひつゝある國難に沈潛して、深刻、濶大、暢展、雄渾、優美、高尙なる民族性を鍛錬せねばならぬ。それは日本人自らを幸福にし、支那人、朝鮮人、露西亞人を幸福にし、遂に國際的文化生活に貢献する所以である。吾人は滿鮮の鏡を前にし、世界の活舞臺に現はるべく、先づ我が姿を正さねばならぬ。

（講演大要文責在記者）

賣笑婦と都市の影響（上）

横濱　木藤冷劍

過般橫濱日々新聞は「氣にかゝる遊廓移轉問題は如何なるか」と題して大森警察部長の談を揭げて曰く、「同問題は都市計畫と多大の關係はあるが其準涉を待つて解決せねばならぬと思ふてゐる譯はない、唯都市計畫を念頭に置いて寧ろそれ以前に決定したい積りであるが、今にも發布する如く傳えらるゝのは噓である。殊に世間の評判が甚しい時は事實實行する考があつても、控えて行ひはせぬ常に先日から有力者等が聞きに來るけれども斷然無根の旨を聲明して置いた。今後は誰も氣のつかぬ際にスパットやる積りて斯かる利權問題の伴ふものは綺麗に濟ませたいものである」云々とあるが、今橫濱市の公娼を中心として各方面より材料を得て順を追ふて其都市の影響と風敎問題に就て一言述べやうと思ふ。

（第一表ノ一）

○大正九年中橫濱遊廓諸統計

所名	現在樓數	現在娼妓數	昨年中登錄ノモノ	登樓人員	費消金額	昨年中削除サレシ者
眞金町	八二	九九四	三二三	六一一、六六六人	五五、四九七、二〇九円	二四五
青木町	二三	一九八	六八	一三八、二五二	六四八、八九四、四四円餘	一五九
合計	一〇五	一、一九二	三九一	七四九、九一八	七四八、一四六、一〇三、四四	四〇四

〔一ノ一乙〕○娼妓名簿登錄者前稼有無別

所名	登錄數	新規娼妓トナレルモノ	前稼經驗ノアルモノ
青木町	六八	四五	二三

○大正九年中眞金町廓登樓人員遊興費月別表

登樓人員數

一月中	二月中	三月中	四月中	五月中	六月中	七月中	八月中	九月中	十月中	十一月中	十二月	合計
六五・八九八	五六・七九九	六二・四四三	五八・七四三	五四・二三三	四八・二六二	四六・八二七	四一・二〇六	四一・五四六	四四・四四九	四四・九九八	四四・六七四	六一一・六六六

（警察調）

○大正九年中登樓客費消金員表

一月中	二月中	三月中	四月中	五月中	六月中	七月中	八月中	九月中	十月中	十一月中	十二月中	合計
三六八・六六五圓	三一三・四四三圓	三五九・〇九二圓	三四九・四八二圓	三二六・四五三圓	二八五・三九四圓	二七四・六三三圓	二四〇・四三〇圓	二三三・五四八圓	二四五・五三四圓	三八八・八九六圓	二五一・六九一圓	二・四九七・二〇九圓

財界不況ノタメ會社職工ヲ解雇シ商店ハ事業縮少シテ使用人ヲ減シ沖仲仕等一日七八圓ノ收入アリトサヘ云ハレシ頃アリシモ五月以來殆ンド仕事皆無ノ情況ニシテ（泡吹錢）ノ使ヒ人モ減セル次第ナリ。

前掲二表に現れたる如く、大正九年中の登樓人員は七十四萬九千九百十八名にして費消金額は四百十四萬六千百三圓四十四錢に達し眞金町の如きは一人前約平均五圓七十一錢にして縣下第一を占む然して登錄せし者三百九十一名にして廢業せし者四百四名にして差引十三名を減じ居れり然して登錄者の別を調べると前稼業の經驗者三分の一に當れり一表の二は眞金町廓の登樓人員と費消金員を月別にして表せしものにして昨年四月以來財界不況のため登樓人員も遊興費も夥しく減少せしを見る事を得べし。

然して廢業別は如何といふに所轄壽署、神奈川署に就て調査せる。

（第二表ノ一）

○廢業種別表

（何レモ警察署ノ囘答ニ依ルモノ）

廓所在名	廢業總數	轉廓	死亡	逃亡	自由廢業	不明	落藉	親許身受
眞金町遊廓	三四五	五一	六	九	三		不明	不明
青木町遊廓	五九	不明	三	二	〇		不明	不明
計	四〇四	五一	九	一一	三		不明	不明

廢業種別は兩廓共所轄署に於て詳しく知るは困難なり。而して兩所分合併して判明する點だけを發表せん神奈川警察署當事者の報によれば廢業の過半數は鞍替にして落籍せられし者は極めて尠しとの事壽署にては親元身受落藉此種別不明との事なりき。數字に現れたる所によりて正確に判明するものは死亡者九名あり、逃亡者十一名あり内五名は後歸來せる由、自由廢業をせし者眞金町廓にて三名あり轉廓五十一名にして後の分は確な事判明せずといふ

次に周旋業者（女衒）及藝妓との關係を見るに

（二ノ一ノ乙）

○藝妓及娼妓周旋と廓の關係

管内廓名	娼妓周旋業	藝妓屋	藝妓數	料理店	酌婦
眞金町	六	廓內一六 廓外五六	一七〇	省略	省略
青木町	六	一四二	四〇七	同	同
計	一二	二一四	五七七	同	同

之を見ると十二軒の女衒と五百七十七名の藝妓があるのである料理店酌婦の分は略するが此等より徴收する税金の調査あり末尾に附記する事として風致上は如何と云ふに、大正十

年度横濱市の徴兵檢査に來濱せる甲府聯隊區司令部の徴兵官を市役所樓上に訪ふて、予は其神奈川縣下に於ける壯丁の體格檢査の檢査成績表を拜借して「トラホーム」を除く花柳病の情態を大正八年度の分と大正九年度の分を謄寫する事にした卽ち第三表の一の如くである。

〔第三表ノ一〕

○大正八九年度徴兵檢査花柳病患者數統計

▲大正十年甲府徴兵司令官來濱檢査ノ場ニテ拜借謄寫。

郡市	年別	壯丁人員數	梅毒	下疳性	麻疾	計	百分ノ比	增	減
津久井郡	八年	、三三八	〇	〇	一二	一二	〇、八九	〇、〇三	〇
	九年	、三四八	〇	〇	一二	一二	〇、八六	〇、二六	〇
足柄上郡	八年	、五五六	〇	四	六	一〇	一、八〇	〇	一、三五
	九年	、五七一	二	四	一二	一八	三、一五	一、八八	〇
足柄下郡	八年	、八七四	一一	一〇	九	三〇	三、四二	〇	三、五八
	九年	、八四三	一七	一三	二九	五九	七、〇〇	三、四〇	〇
中郡	八年	一、二六七	一二	一八	八	三八	二、九九	〇	二、八四
	九年	一、三二三	七	二三	四八	七七	五、八三	二、九四	〇
愛甲郡	八年	四二三	一	〇	一	二	〇、四七	〇	一、二九
	九年	四五五	〇	〇	八	八	一、七六	〇、七〇	〇
高座郡	八年	一、二一〇	一〇	一三	九	三二	二、三二	〇、〇八	〇
	九年	一、二一二	五	六	一五	二六	二、一四	一、〇五	〇
三浦郡	八年	八九五	一三	一六	一	三〇	三、三五	〇	一、九二
	九年	七九七	四	五	三三	四二	五、二七	三、一二	〇
○横須賀市○	八年	三七五	二	四	五	一一	三、五七	〇	一、八八
	九年	三〇八	三	〇	一三	一五	五、四七	三、九六	〇
鎌倉郡	八年	六二一	五	〇	〇	五	〇、八〇	〇	三、六八
	九年	五八一	六	一五	五	二六	四、四八	、三七	〇
久良岐郡	八年	二〇二	一	〇	二	三	一、四八	〇	一九
	九年	一八七	一	一	三	五	二、六七	〇	一、一七
○横濱市○	八年	一、九二七	一一	一三	二四	四八	二、四六	〇	三、四二
	九年	一、八二二	一三	二〇	七四	一〇七	五、九一	三、五二	〇

第三表は九郡二市に分れて居る◎印が公娼の所在地にして（主なる）其統計の示す如く比較的横濱、横須賀に花柳病多く、大正八年より大正九年の増加率は、花柳病のみにして横須賀は三百九十六名を増し横濱は三百五十二名を増してゐる詳くは表に就て御覽を乞ふ次に山梨縣の壯丁檢査の成績の略表を掲ぐ左の如し、

〔第三表ノ二〕

○山梨縣ニ於ケル花柳病百分ノ比、（甲府徴兵署ノ調査）

郡市	年	百分ノ比
北巨摩郡	八年	〇、二八
	九年	二、六四
中巨摩郡	八年	一、六八
	九年	二、三七
南巨摩郡	八年	〇、七五
	九年	二、〇九
西八代郡	八年	一、二五
	九年	一、四六
東八代郡	八年	一、三二
	九年	一、四八
東山梨郡	八年	〇、四八
	九年	二、五三
甲府市	八年	一、八六
	九年	五、〇〇
西山梨郡	八年	、二九
	九年	五、〇九
南都留郡	八年	、二六
	九年	三、五六
北都留郡	八年	、五三
	九年	一、七七

是に於ても公娼の所在地甲府市梅毒の最多を示し居れり次に娼妓病院の情態を調査せし所第四表の如くである。

〔第四表〕

○横濱娼妓病院大正九年入院病名別表（眞金町病院調査）

種別	患者總數	梅毒	淋病	軟性下疳	剝脫	外陰其他傳染性皮膚病	痔疾	結核性疾患	トラホーム	癲病	其他
娼妓	一、四二一	一〇四	四七八	七八四	三六	二	二	一	三		一
行政執行法第三條該當	一一三	一九	四八	四四	一		一				
合計	一、五三四	一二三	五二六	八二八	三七	二	三	一	三		一

此調査ニヨレバ娼妓ト密淫賣婦モ軟性下疳ニ罹レルモノ最モ多ク次ニ淋病次ニ梅毒トイフ順ニテ剝脫ハ梅毒ノ約半數ナリ。如何ニ淋病ノ多キカヲ思イテ戰慄セザルヲ得ナイ入院中ノ彼等ノ娛樂狀態ヲ調査セシ所左ノ如シ。

娼妓病院の情況は毎號田口和子氏の詳細なる報道によつて、判明せる故茲には詳しく報じる事を見合するが擴濱市眞金町病院（驅黴院）にて入院中の娼妓の娛樂情態を調査せし所によれば入院中の娼妓の食費は日三十八錢にて縣費にて支拂ひ居れる由、入院娼妓に對しては毎月第一土曜日午後一時より義太夫、落語、手品、茶番等を演ぜしめて、患者には汁粉、甘酒、鮨等の饗應をなすと而して眞金町病院の報告によれば毎會充分の慰安を與ふとの回答ありき人間道を逸した生活をなしつゝある彼等は甘酒や壽して充分な慰安も得られやうが普通な考えてはなか〳〵慰安を得られぬ事と思ふた、壽しや、甘酒で充分に慰安が得らるゝならば亡八の天下泰平と申すべきであらう。次に、市役所に行つて私生兒と嫡子の別を聞こうと思ふて調べたが之は正確に判明する事が出來なかつたが認知の分だけは判明して居る大正九年中の結婚離婚の統計の示す所を見れば左の如くてある。

〔第五表〕

○大正九年中結婚離婚届出統計（横濱市戸籍課統計係調査）

內譯	本籍件數	非本籍件數	總計	前年度ト比較 増	前年度ト比較 減
出生	八、八三八	四、六一一	一三、四四九	一、三四一	
認知	、六四三	一一一	、七五四	、一五五	
養子縁組	一、三一五	八九	一、四〇四	六九	
養子離婚	、二六七	八	、二七五		二五
婚姻	四、一七五	六七三	四、八四八	、八四〇	
離婚	、四〇五	五九	、四六四	、二三〇	
親權	一	〇	一	一	

是表によれば養子の緣組に對して離別は前年と比較して廿五件を減じ婚姻に對する離婚は前年度より二百三十件を增して居る、比例は、婚姻十に對し一强に當る、不日公娼の所在なき地方郡衙の統計表を借りて發表して參考にすべく目下調査の步を進めつゝある。

次に遊廓所在地に於て、廓の樓主が遊客に賣り付ける物品の非常に暴利なる事は周知の如くなるが今最近大正十年五月神奈川署へ屆出ある淸水町廓內の賣値段と市の普通店舖の値段とを比較したる所第六表の如くてある。（つゞく）

蹂み躙られたる婦人

神戸婦人同情會長　城のぶ子

◇凡百る改造の基準

社會問題に對しての傾向は上下一般こぞつて奉仕の、塊となつてその周圍、その生活をよりよいものたらしめやうとして居る、近時高唱される改造に就ても住宅の改造問題あり、衣服の改造問題あり食物の改造問題あり、頭の改造問題等種々雜然として多事多端であるがその根本は精神の改造であらねばならぬ。理想の國、理想の家庭、そして男女貞操問題の理想的な解決は、それを外にして有り得ない、人倫の大本は一夫一婦制度にある、一人の男子と一人の女子によつて完全なる生涯が營める、女を見て劣情を起こす人は既に心に於て之を姦淫したるなりと聖人は敎へてゐるが日本の今日は一夫多妻が公然行はれて男子は憚る所なく蓄妾をして居る。

曾て東京に行つた際に有名なる實業家の令夫人夫は福澤諭吉先生の末のお孃樣であるが、その方が私に向つて「近頃は實に限りない寂しさに浸つてゐます何故なれば私の多くの友達は近頃何一つ私に相談をしてきません夫は御主人達が妾狂ひをして居るので、私のお友達の奧樣連は自暴自棄て俳優狂ひをして居るので妾なんか顧みる方がありません」と

之によつて上流所謂有識者の家庭の裏面の汚れが手に取るやうに見える全國には十萬を越えた藝娼妓が存在しその下には又十萬の母や妻のかわかぬ涙が湧いてゐる、男子が其の性慾を充すため本能を發揮さすために、幾多の悲慘なる事象を起してゐるがこの原因は男子その者の道德觀念の低劣なために外ならぬ立派な家庭と人々に思はれてゐる皇室の藩屏たる華族其他の有識者の家庭を私は同情會設立以來の五年の經驗からよく知つて居る、しかし其の知つて居ることは男子の罪惡の跡のみであるには驚かなければならぬ此横暴なる男の下にあつて婦人の採るべき態度は三つある。

◇輕視された貞操

一は男子の罪惡と爭ふために極度のヒステリーにかゝる事、一は男子に劣らず役者狂をする事、今一つは暗澹なる死を選ぶ事である。全世界人類の二分の一は婦人が占めて居る、これは國に於ても、家庭に於ても半分は婦人が占めて居り、近來益々増加しようとして居る職業婦人として敎員も二萬人以上もあると云ふ、而もこれら半數の婦人が、日夜どれ程惱み、悶え、苦しみ痛んで居る事が、現今の社會制度は男子に都合よきやう男子本位に造り上げられ、婦人は口を利かぬ者

常に沈默してゐるものとして今日迄抑へつけられて來た、婚約の法も財產の法も男子の利一方に偏して制定されたものである、私が最近世話をした十六才の小娘がある。

之は水戸の生れて幼くして父を失ひ母親に育てられて來たが貧困のためにある年、ある口入屋の紹介で料理屋に雇はれた、始めの契約は一切汚れた行爲はさせず行末久しく面倒を見てやると云ふのであつたが主人は其の晩から客を取れと強請した小娘は其の恐ろしさに堪へられずその家を飛びだし、又他の店に奉公し、又飛出して六七度轉々してる中不正なる雇主のためについに聖く尊き操を破られてしまつた娘の母親は、可愛い娘の事なので早速、水戸裁判所に告訴したが裁判官は斯ることは餘りに小さ過ぎる、這麼事を取上げて居たら數限りがない故微少罪として却下して終つた。

ソコで母親は東京の同情ある辯護士に依賴し控訴院に控訴したが矢張り、微少罪として却下された、最後に大審院に上告したが審理何ケ月の後矢張り却下されて終つた。生命より貴重な一人の少女の貞操蹂躪を微少罪として却下した裁判官等の家庭の裏面は好く知つて居るが、かくの如き事を微少罪とする法律の下に居る吾々は眞に大きな、悲しみを感じなければならぬ。

餅一個、下駄一足を取つた者でも警官はすぐ捕へて年末賞與の多くなる樣にと告發して罪人とするが、少女一人を精神的に殺したる雇主のために微罪として何等制裁の道がないのである、そしてかゝる時には何等この乙女を保護するの道がないのです。

◇百八十萬圓の奴隷

或る時は淫賣婦が捕まり私はその署に行つた、其時署長も「實際現在の法律は女に對し總て苛酷過ぎるが何うする事も出來ない肉の切賣をした女は斯く冷たい留置場で七日の拘留處分に附せられるが平氣でこの女の肉を一圓二圓なりて買つた男を現在の法は何等罰しないのである」と云はれた程で、心ある男子の方迄が認める程法律は女子に不利であるその淫賣婦は其後私が引取つて今では美しい女に立歸つて居るが大阪には五千人以上といふ公娼が居る、之が家庭の風紀を紊して道德心の低劣な男子がそれを買ふて居るのであるが公娼の好いか惡いかの論は別として私は私が女であるので同性の立場よりして、肉の切賣を公にさして居る日本の法律治下にゐるのを眞になさけなく感ずる。

今から六十四年前、アブラハム、リンコルン氏は、何億弗といふ金と三年の日子を費し四百萬奴隷に安寧と幸福を齎しめるために正義と自由の戰を起して勝利をあげたが日本に於て十萬の公娼それは、金と肉の二重の奴隷生活を僅に百八十萬圓の國の收入の爲めに、太鼓判を押して、肉の賣買を公に許して居ることは眞に殘念至極だと思はざるを得ない。

東京の吉原そして大阪の飛田松島に一歩足を踏み入れると、牛馬の賣買されるが如く婦人の寫眞が竝べられてゐる、尊い女一人の生命はかくも安つぽく賣られつつあるのである、人道上の問題として、風紀上の問題として道德上の問題として、男子の品性を亡ぼしつゝある此問題を同性として沈默して居る譯に行かぬ。日本を亡ぼすものは亞米利加に非ず亞米利加

は恐るゝに足らないが日本を亡ぼさんとするものは實に肺結核と酒と梅毒とてある先日知己の英國人と神戸の街を散歩したが其時多くの電柱に墨痕淋漓と「梅淋」と書いてあるのを指さして、「あれは何の廣告か」と問はれたので、私は驚いたけれど、笑ひてまぎらして、「梅の花が咲いたら見に來いと云ふ案內てせうよ」と答へた、自分ながら顏から火の飛び出る樣な、ほてりを感じた、いふまでもなくその電柱の廣告は「梅毒淋病の藥」の廣告てあつた、如何にも日本には、かゝる病氣の者が多いと云ふ事を廣告してる樣に思はれる。

外國でも、惡い病は中々多いと聞くが街の中央の電柱に廣告してるのは聞かない、君子國と誇つて居る我國、聖人の敎へを以て人道の大本としてる日本國もこの事實て、全然、裏ぎられた現實の暴露に悲哀を感じるのてある。

◇男子の不身持から

大阪に開催された兒童博覽會では「兒童より親へ」と云ふ畫を澤山見たが、其の中に何が書いてあるかと云へば「何卒品行を大切にして下さい」とある、梅毒を子々孫々にまて傳へる爲めに、如何に風癲、白痴、低腦兒が多くなることか、大正九年度に於ける三重縣の社會課統計によれば、同縣に於ける、精神病者は二千三百人、生れつきの不具者(盲者啞者)は二千五百人、低腦兒、白痴が二千七百人、何が原因してるかと云ふに父や祖父の遺傳性梅毒の結果だと云ふには一驚を喫せざるを得ぬ。

曾て福知山に於て私が講演をした後に一人の老婦人が私の許に來て泣いて話した、此の母の悴は生れつき片眼であつたが能力は左程でもなく村の收入役をつとめて居た、然るに漸次丈夫な方の眼も不良性を帶びて來るので、大阪に出て專門家の手術を受けさしたが、遂々一方の眼も見えなくなつてしまつた。そして醫師よりこれは祖父の梅毒遺傳の結果だと言はれて今更罪なき悴の身に祖先の罪が酬いてきたことを恐れ悲しむ」と言つて愁嘆された。

男子の不身持、不道德のために種々の悲慘事を生むが本年四月十一日、東京よりの歸途、橫濱の女學校に立寄つて校長にお會すると、いきなり校長は「遲かつた、遲かつた、今十二時間早かつたらなあ」と云はれるので吃驚して仔細をお尋ねして見ると「まあ此方へ來て下さい」と案內され一室に入ると其處には二十四、五色の青ざめた婦人が寢て居て上は白布て覆はれてゐる校長の話によると「此婦は小學校の敎師てあつたがこの橫濱に全く知り合ひがないため、小學校長の賴で家の定まる迄、寄宿舍の一室を貸してゐた、この婦人の父親と云ふのも山口縣の小學敎師てあつたがその在任中出入の辨當屋の娘と淫蕩の結果仲に出來たのがこの婦人で生れるとすぐ父は辨當屋にいくらかの金を與へて手を切つた、そこで辨當屋はその子を早速、ある所へ養女にやつた、現在生みの兩親がこの世にゐながら二十三年の年月を送つたが、その間未だ見ぬ父親に憧れ東京に居るといふことを仄に聞いて、遙々東上し、その父親と面會したが父なる人は「お前とは今ては何等の關係が無い筈だ」と權もホロロの挨拶に賴る家なく橫濱に流れて此處で小學校の敎師になる事が出來た、しかるに今朝昇汞水を飲んてお父樣に會ひたい會

いたいと言ひ續けつゝ死くなつたとの話てあつた。貴女様のお出がもう半日早かつたら、此の婦人を死より救ひ輝きの日を送らす事が出來たかも知れないのに……と其日一日、其の一室に二人端座した校長はかう語られた、兒童に修身を說く身の教師が、辨當屋の娘と通じるやうな不身持のために此の悲慘な死がある、二十三年前に於ける一瞬時肉慾を樂む時に二十三年後に此の死あることを想像し得た事では無からう。

◇三從七去の悲哀

私自身は婦人の矯風事業をして居るのは命懸けてある、而も餘りの事に悲しみ常に多い、結婚の目標も日本在來のは家柄、財產等を標準として行つたもので從つて撰擇の不行屆きのため、日本は世界第一の高い離婚率を有して居る。

淡路州本の或る大富豪の夫人に招かれて行つた時に「私の娘は家柄本位として或家に嫁がせて本年子供を生みましたが二十八の夫は恐ろしい癩病であつた事が判明り今更どうする事も出來ず私等は運命に泣いて居る、結婚前、媒介者の話では、頭は時々惡くなるが高々二時間も寢てゐれば、なほるからと云はれて居たのを信じたためであつたが事實は極めて重い癩病であつて、親の調べの足りなかつたことを今になつて殘念に思ふと話されたことがある。

忘れもしない一昨年九月二十八日の夜私の許に來て、泣き泣き語つたある婦人は「初め早稻田大學出の男と結婚して翌年女の子を產み、夫婦中もよかつたが、其の中親同志が金錢問題から互に爭ひ、私の父は無理に私を連れ出して離婚にし、子供は敵の子と思へと云はれた。乳のいたみにつれ子を思ひ、遂に激度のヒステリーを起し今日に至つた八年後の四月一日、八つになつた自分の娘は、他所のお孃樣の樣に靴をはいて學校に通つてゐるかと思ひ出しては日夜泣いてゐるが父は未だに仇の子と思へと云つて居る」と三十分程も泣き崩れられた。

親が財產目標の結婚を娘にさせて後、斯る冷やかな取扱をして居る、幼くして親に從ひ、長じて夫に從ひ、老いて子に從ふ體の女大學式に敎へられ子なければ去ると云ふ七去の敎へにかためられ婦人は何一つ云ふ事が出來ぬ、どの方面よりしても壓迫に壓迫せられて了ふ、嫁入りの際持參金を所持して居つても夫の不身持の爲、蕩盡されても、訴へ出るには家名にかゝわる斯うした運命の下に幾多の婦人は泣きに泣いてゐるのである財產に就ても結婚に就ても男子に比して極度に女子は不利益であるが、是を改善するには婦人自らが行はねばならぬ。

東京や大阪神戶などへ勝手を知らぬ若い娘が足跡を印すると網を張つた朦朧車夫が魔の手を伸べ彼女を摑んで直に不良口入屋に拉し去る。そして土地不案內な此の娘を淫賣屋に賣り飛ばし其金は彼等の酒代に化して了ふ。そして其夜より可憐な花は嵐に散つて了ふのである一人の娘は、たまらなくなつて警察署に飛込んでそこから私の許に來た、娘は虚榮に憧がれて平和なる田舍の家を捨て神戶に來て魔の手にかゝつたのであつた。

弱い女多くの女、それ等を救ふのが自分の天職として自分は一身の安樂、名譽幸福を顧みず、女性の貞操と道德とを守らんと、天の啓示を受べく大正五年三月廿五日神戶の北の山中に入り、二十六七

日と二日間ゐたが二十七日の夜「汝立て、弱い同性の保護者たれ、名譽幸福其他すべてを棄てゝ立て」と云ふ暗示を得喜んで山を降りてこの獻身的事業を初めたのが、現在の神戸婦人同情會の起つた動機である女性が淚のつきるまで泣いてゐるうち一人でも、亦、平氣で自分の肉を賣つて居る人の一人でも自分の道に誘ひ入れたいのが私の願であつて、今日迄直接に千三百人を完全に救ひ得た。勿論これは僅であつて誇り得るに足らないが、省みて私一人の仕事としては大きな仕事であると云へると思ふ、自分の家の一員として身を任ぜられその向上への導きのため、金もなく、羽もないのに、日本中をかけめぐつてゐる。

◇死神招く須磨海岸

男子の不純なる生活は其人一代に現れぬ、併しながら未だ生れぬ二代三代の醜き苦しさを想像する時に、私等は戰慄を禁じ得ない、往年菊地大麓氏が文部大臣に質問し「大學より人物が出ぬのは如何」と云へるに對して當局は「大學は人物を造る所に非ず學者を造る所である」と答へたが、其の學者たるべき大學卒業生が家庭にあつて常に暴君である事が多いのは如何したものか。先夜おそく面會れした婦人が私を訪れて來たが、身體全體が紫色に膨れ所々は青痣のやうになつてゐた私は其人を一室に靜養させ氷で冷して看病したが、その婦人は堺の人で主人は大學出の學識あり現にある會社の重要な椅子を占めて居ながら常に茶屋酒に浸つて歸つて來ると四つの子供の前で恥し氣もなく亂痴氣騷ぎをして擧句の果に散々毆りつけるので妻女は辛棒し切れず私の許に飛んで來たのであつた。私は電報で主人に婦人の居ることを知らすと其翌日、主人は受取りに來た、「貴方の力のあるのを賴みに半生の友である可愛い妻を毆り牛馬の如く取扱ふとは卑怯にも程がある、若し御家内に惡い所があれば靜かに其の道を說き聞かせ、それでも直らなければ最後の手段を採るが好いてはないか」と云うて歸してあげたところが主人も「死んだのぢや無からうか」と心配して居たところなので心から感謝しつゝ引取つた。

これが現代の學識ある人なのである、かくの如く私の職業は日本に二つと無いものであるが其の眞意は弱い同性の保護である。甲府に行つた時も、ある婦人の家に一夜泊つた其夜、婦人は私に何卒聞いて貰ひたいとて話をした、その話によるとこゝの主人は養子の身で現在十七の男の子と十五の女の子がありながら同じ甲府に妾を圍つてゐるため十年間一日も安らかに日に送つたことがなく遂にはヒステリーになつた」と云ふ身の上話を眞夜中十二時から三時頃迄細々語られた一昨年須磨での自殺者は九十六人に上つた「人若し全世界を得るともその生命を失はゞ何か益あらん」と云ふ聖言に從ひ一人でもの生命を救ひたく色々考案の末警察署、鐵道省の好意を享けて須磨驛の東手と一の谷に「一寸待て」の立札を五本立てた。

現在大阪のある重役の婦人が七歳の令孃と共に自殺せんとせし時、その令孃が物して長火鉢の抽斗に入れて置いた書置には、平假名で「御父上樣お御母上樣と廣い綺麗な所へ參ります左樣なら」とかいてあつた、そして母樣に手をひかれ須磨驛に下車した、七つの乙女は死の恐ろしさも何も知らずに母の自殺の道連れをするのであつた、南に淡路島、西に鵯越を負ひ濱邊を吹く風、松を鳴らし浪を動かすところ東より駛走し來る汽車の車輪に轢かれて鐵路の錆とならうとした時、雲間をはなれた月の青白い光に「一寸待て」の札が浮き出し婦人はそれを見ると覺然として我に歸り死を思ひ留まつて私の所に來た。

死を決した原因は主人が養子の身であり乍ら資産を遊蕩費に使つてしまひ夫人は亡き父や生きてゐる母や妹に對して申譯がないとて死を選んだ決心を語つたが私の意見で家に歸り現在では平和な家庭に春を樂み常々戴く手紙にも、當時の事を追想しては生を保ち得た喜びを感謝してゐられる。

婦人問題解決の根本義

廓清會江東支部幹事　家田梅南

今より十年前吉原大火の際、又は二三十年前の昔に於て、多くの政治家、學者、宗教家、教育家に依つて痛論せられたる此公娼廢止問題が、大正十年の今日に於て、婦人各自が大に自覺して、その權利を主張しつゝある折柄であるから、一層痛切に、又眞劍に論ぜらるべき喫緊の重大問題であるに拘はらず、眞面目に、眞に熱誠を籠めて論ずる者誠に稀であつて、眞に不可思議の至りである。蓋し一般人の此問題に對する神經が痲痺して、所謂氣根負けしたるに由るか、將た滔々たる淫風卑俗の爲めに壓倒せられて、意氣銷沈したるに由るか、誠に慨然たらざるを得ざる痛恨事である。新婦人協會其の他の團體が、堂々たる婦人の權利問題を解決する前に先づ此憐れむべき姉妹を、公娼制度てふ自由の束縛より解放し、醜穢なる暗黑面より救濟し、惡制度廢止の大解決を與へなければならぬ筈である。此問題は一部の宗教家や、教育家や、倫理學者のみの問題でなく、實に國民全體の大問題てある政事家も、實業家も、資本家も、勞働者も、農業者も總て研究し、考慮すべき大問題である。そして普選問題の緊急なる問題であり、勞働問題の緊要なる問題てある如く、否それ以上に焦眉緊急の人道的大問題である。

□國民の先決問題たるべき公娼廢止

現下婦人問題は、盛んに學者識者の間に論議せられてゐる。殊に新婦人協會が衆議院議員の手を經て今議會に提出した、治安警察法第五條中より女子の政談集會に會同し若くは其の發起人たることを禁止する項を削除する法案外三法案の如きは何れも堂々と婦人の權利を主張し、有爲の男子をして避易せしむる威力を有して居る。然しながら吾々は、一面に斯くの如き堂々たる婦人の權利思想が發達して、兎に角具體的法案として顯れ來りたるを祝すると共に、他面に於て、我が姉妹の内に、其の天賦の自由を束縛せられ、節操を蹂躪せられ、賣淫を强要せられ、恰も奴隷に等しき憐れなる境遇にある公娼が、日本全國に於て約五萬人ある事を忘れてはならぬ。

□國家の體面より觀たる公娼廢止

娼妓稼業を公許すると云ふ一事が、社會の各方面に於て、幾多複雜なる重大關係を有してゐる。吾人は固より私娼の絕滅を希望する者ではあるが、然しそれは百年や二百年て遂げらるべき問題ではないから、私娼の存在は已むを得ずとして唯國家が此娼妓を公許する事を廢止したいと言ふ事を主張するのである。先づ第一に考ふべきは、此純潔なる貞操を犧牲にし、賣物にすると云ふ事は、道德上に於て許すべからざる大罪惡だと言ふ事てある。一夫一婦が人倫の大本であり、天下の公道てある以上は、男子も女子も同

じく其の貞操を守らねばならぬ。そして政府當局者に於ても、その獨り〳〵の人格を認めなければならぬ。故に若し一婦人の貞操が破られ、傷つけられんとするときは、之を保護して其の貞操と人格を保たしむるのが、政府當局者の義務責任である。然るに何事ぞ、政府當局者は、却つて其の貞潔を破り、醜行を逐ぐる稼業を公許するとは、是れ實に言語同斷の事柄である。

又此娼妓を雇ふて營業する所の貸座敷業者は、その抱娼妓を虐待して、種々醜劣狡智なる手段を弄し、不正不當の利得を占むる事を常とするが故に、此娼妓の稼ぎに依つて、立派な財産家となつて居る者が隨分にある。隨つて吾々正しき國民が、尊き公權として得つゝある、市町村議員より衆議院議員に至る迄の選擧被選擧の兩權を、彼等醜業者の多數が同等均一に得て居るのである。故に市町村會、府縣會又は衆議院に於て、眞に國家社會の爲めに働く所の、人格あり、識見あり、德望ある人物と、此醜業を營む非人道者、反道德者と、時には同一議場に其の肩を並ぶると云ふ事になるのであつて、實に其の神聖なる議場を穢し、會議の權威を失墜する、之より甚だしきはなしと云ふべきである。そして此事は、延いて日本國民全體の品位を失墜せしむるものであつて、甚だ悲しむべく憤慨すべき事柄である。歐米諸國に於ては、此娼妓を公許し置く國は、一國もないのである。然るに我が國は歐洲大戰以來五大國の一となり、猶ほ進んで五大國より三大國となりつゝある今日に於て、特に我が國家の體面と品位を重んぜればならぬ。其の意味からして、一層痛切に此醜穢なる公娼廢止を叫ばざるを得ぬのである。

□男尊女卑の弊風と人權蹂躙の公娼制度

又公娼制度の存在を許し、娼婦を人間視せずして、之を機械又は動物の如き心持ちて、取扱つて居る間は、舊來の男尊女卑の弊風を一掃し、同女同權の地位に進ましると云ふ事は、思ひも寄らぬ事柄であつて、到底不可能である。そして公娼問題の解決が、一日も忽にする事の出來ざる所以は、それが甚だしき人權蹂躙であるからだ。未決囚の拷問の如き一時的のものでなく、常住的であるからだ。是れは實に帝國憲法の大精神に違背して居ると云はねばならぬ。今日の凡有社會問題は、人權問題に歸着するのである。多くの不心得なる人々が、其の子女の大切なる教育を犠牲に供して、無殘にも其の子女を娼妓に賣り飛ばし、此尊き人格を無視して顧みず、樓主も亦之を奴隷視するに至つては、誠に痛歎の涙を禁じ得ぬのである。

「雪の日やあれも人の子樽拾ひ」といふ有名な句があるが、此樽拾ひよりも一層殘酷なる取扱を受くる所の娼妓も、亦吾々と何の異なる所なき人の子であり、吾々の姉妹である。彼等の心の奥には、研けば光る所の尊き靈性を有してゐる。又正義人道を慕ふ所の床しき心魂を宿してゐる。然るに世の多くの人々は、往々にして娼妓の憎むべく恐るべきを知つて、憐れむべく同情すべきを知らぬのである。由來總ての營業や商賣は、自分を利すると同時に、人をも利するのである。是れが正業たるの本業である。然るに娼妓なる稼業は、自分が繁昌すればする程他人に迷惑を及ぼすのである。即ち遊廓に出入して財産を蕩盡し、且つ梅毒其の他の惡疾に感染するのみならず、其の放蕩に依つて、父母妻子を泣かしむる悲慘事が出來するのである。

□政治の方針と教育の目的を統一すべき公娼廢止

又彼等娼婦の平素を考ふるならば、恰

め籠中の鳥や檻内の獸の如きものであつて、その四圍にある所の者は、彼等の血を吸ひ肉を食はんとする、恐るべき樓主其の他の一味者である。それ故に彼等を敎へ、彼等を慰むべき者が一人もないのである。彼の監獄にある所の囚人すら、敎誨師に依つて敎へられ、導かれて居るに拘はらず、此娼婦等は何等敎へ導かるることなく、又何等の光を與へられぬのである。若し何人かが彼等に一道の光明と、娼妓てふ醜業は一大罪惡なりとの自覺を與へて、正業に立ち歸らしむる事が出來るならば、即ち彼等を救ふ意義となるのみならず、今迄彼等に依つて亡ぼされ、墮落せしめられた多くの靈性をも救ふ結果を來すのである。

又敎育の目的は各自の人格を高め、人格の完成を圖る事である。之は敎育家全體も、國家も共に是認する事柄であつて敎育勅語の大精神も、そこにあるのである。然るに其の同一の國家が、人格を無視して之を蹂躪せしめ、賣淫を公許すると云ふ事は、矛盾の甚しきものであつて、敎育者が甚だ困却する點であると思ふ。斯くの如くにして一國の風敎を維持し、一國の道德を向上せしむる事は、到底出來得ぬと信ずるのである。吾人は此意味に於て公娼の廢止を提唱し、國家の政治と敎育方針の統一を庶幾する者である。或る人は之を衞生上から見て、種々なる議論をする人がある。併し私娼と雖も、當局者の職權を以て相當の取締をなし、檢黴の實を擧げ得るのであるから、其の點に就ては何等の軒輊がない。兎に角國家が制度を設けて、貸座敷業者及娼妓を公認するに至つては、之を是認する事となるから、何うしても學校や文部省の方針に對して、一大矛盾たるの譏を免れぬ。

□人間の理想と社會制度の完成

吾々は國家社會の一員として、第一に肉體を健全にし、智識を明かにし、感情を淸め、意志を強くし、社會共同の生活に入つて、人類全體の進歩發達を助けなければならぬ。故に家庭も、國家も社會の制度も、人間の目的と理想とを助成しなければならぬ。若し家庭や、社會や、國家が此理想の發達を妨ぐる時には、之を改革する事が必要である。又現代切言すれば、大正十年の今日の婦人は、日本に於ける過去の凡有時代よりも、より多くの尊敬と特權とを有してゐる。併し乍ら公娼制度は日本の國法の一大暗黑である。凡そ如何なる時代と國とを問はず、婦人が其の體力、智識、人格、信仰發達することなく、單に男子の玩弄物となる時は、其の國家は生命を失ひ、其の社會は瓦解するを免れぬ。希臘は斯くの如くにして倒れ、羅馬は斯くの如くにして亡んだのである。而して斯かる惡風に對する自然の反抗は、惡疾となりて顯はるゝのみならず惡疾は生殖力を減少し、子孫を薄弱ならしめ、或は全く之を斷絶する恐るべき結果を齎し來るのである。廓淸會、救世軍、婦人矯風會は、此公娼廢止及その準備行爲の一たる自由廢業のために、十年乃至三十年間勇戰奮鬪した。然しながら未だ公娼制度てふ敵壘を陷落するに至らぬが、娼妓の數が年々減少の好果を顯はして居る。即ち統計の示す所に依れば、全國の娼妓の數は大正四年に、五萬一千十九人であつたのが、同五年に四萬九千百七十人となり、同六年には四萬七千八百十二人となつた。尤も大正七年には四萬八千二百六十八人となり、六年に比し四百五十六人増加して居るが、大體に於て減少の傾向を示してゐる是は一面に於て、時勢の進運と、婦人自身の自覺の然らしむる所であると思ふのである。要するに、公娼の如き、法律上に於て之を公認し、道德と背馳せしむる惡制度は、此際一日も早く撤廢して、國家の體面と權威を保たなければならぬ。そして極力私娼の跋扈を取締る事が最も正しき方法であり、實際上の成績を擧げ得べき事であると思ふ。



謎の世界吉原日記（三）

元吉原病院看護婦　田口和子

六月二十二日（日曜日）

勤務後鶴町の看護婦會から附き添ひに派出されて來て居るY樣の室へ遊びに往く。Y樣のお部屋は横痃室である。此の病院へ派出されて來て唯だの一言の不平もなく出てゆく人は怎麽溫順なしい人だつてありはしない、またあらう筈もないのであるが、Y樣も多少の不平をお持ちになつて居る一人である。このY樣が今朝程内科患者室においてのS樣と頻りに不平の比べ合ひをなすつて被居るのを立ち聞きするとそれも決して御無理であるとは思はれない。

「私の患者さんたら隨分だわ、ヒステリーが強くつて、眞實うに困まつて仕舞ふのよすこし氷嚢の置き具合でも惡いと直ぐ板の間なんかに破れる樣に放り出したり、何んとか言へば二タ口目には稼業人だとかもつて馬鹿にしやがるなんつてそれは偉らい權幕なんですもの、それを我慢してなけりやならないかと思ふと私此麽な辛らい事はないと思ふのよ』と樣は泣くY樣にお仰る。するとS樣は『あなたのとこは未だ優しいのよ、私のとこの患者さんたらもつと〳〵そりや酷いのよ私が髮を結へば手が汚れるから其前にお顔を洗つて上げ樣と言へば、唯だ默つて小説ばかり讀んでらつしやるから髮を解き初めるとそれが見濟ましてすぐに、さあ顔洗つて手拭を持つて來いとせき立てるんですもの、口惜くつて口惜くつて堪まらないわそして少こし氣に入らない事でもあると、お前なんか金で傭つてる體ぢやないかと言つてこの間なんかも氷嚢を私の顔に打ちあてやうとしたので、その時こそ眞實うに私泣きたかつたわ……』

斯うして年若い看護婦達が普通の宅へでも派出された時の樣な心持ちで來てはその豫想を裏切られて失望する樣を見てはそゞろ同情せずには居られないのであるが、また憐れなる姉妹達がその慘酷なる環境の爲めに、彌が上にも心は益々荒み誰彼の用捨も見境もなく常に亂暴なことを平氣で言つたりしたりしてそのうちに次第々々に暗黒を辿つてゆくのではなからうかと心窃かに淋しく思つた。姉妹達が益々心の荒むのは日常見聞きする周圍の宜敷くないのも一つであるが、また彼の女等が病に倒れて病院などに入院して來た時、看護婦のうちにも溫かい同情心を持つて居る人ばかりでないために、病人となつても矢張り私達は何處までも虐げられなければならない、といふ樣な考えを持ち、更らに自棄自棄に陷つて彼麽な女性としては全然見られないやうなことになつてゆくのではなからうかと云ふ事も見逃すことは能きない。

恰度今日も二人の患者が話し合つて居るのを聞いて居るとそれは餘程以前の事ではあるけれど、K樣（病院の看護婦）が夜の人員調査に「一匹、二匹……」と數えたとかいふことで、それで自分等（患者）は跳れ起きて事務へ談判に出掛けて、それからは今の樣に一名二名と數える樣になつたけれど、女郎がとかつて吐かしやがる、ほんとに馬鹿にしてるよ。花魁を花魁と呼べばそれで可いじやないかれ、無理に畜生の樣な呼び方をしないだつてサ……と、畜生呼ばはりも宜くはないが花魁といふものがどれ丈けよいのだらうか。それでも彼の女等は花魁といふ辭を餘程よいものゝやうに思つて居るらしい。そして私がその慕ふ譯を尋ねると、

『だつて花魁と言やお昔は隨分威張られたもんですもの、私等田舍から連れられて來る時にも口入屋さんが何偏も〳〵昔の花魁の美しかつたことや、その贅澤な氣儘な暮し向きやを聞かせて、今だつてそれを眞似てる場所だから着たい物でも喰べたい物でも何不自由なく、一寸出るにも俥に乘せて我儘氣儘に日を送られるんだつて言つてたんですもの……』と。

六月二十三日（月曜日）

今日非番ではあつたが雨が降つたので外出を見合せ、かれてそれと目差して居た二階の布團部屋へゆき、係の小母さんにいろ〳〵と話し掛けて見た處案外に産むは易く小母さんは東北訛りのヅー〳〵辯で、私が『小母さんお一人で此れ丈けの夜具を整理するの、隨分大變ですわれ、こゝでは患者のものを何日隔きい位に取り替えて上げますか』と尋ねるに對して、いとも熱心に說いて與れたのであつた。

『規則では一週間隔きに取り替える事になつてますけれどほんとは一ト月も二タ月もその儘ですよ、敷布なんか全るつきり新らしいのは素より、古いのも無い樣な始末で患者一般にもやれやつとゆき渡る位でれえ、室に依つちやもうのべつ幕なしに敷き詰めてゴロ〳〵寢てるから鼠色になつてま

るアれ」あれが病院としての完全な取扱ひと謂へるだらうかしら、それでは全然豚函の中にでも放り込んだ様なものではなからうか。小母さんは猶ほも語り續けた。

「此の人達(患者)位手におへない人間はありませんよ、良い働き盛りにあゝして寝たり轉んだりして日を過すより何か覺えさしたらてんで、一時は別に部屋も設け事務の方から糸も針も出して遣つてお裁縫の先生を雇ひ込んで日に一時間づゝ習はせることにしたんですけれど、そうですれえ、三百人計りも居る中で始めは二十人も習う者があつたでせうか、それが直ぐ様二人減り三人減りして、針を持つと傷が治らないとか自分達は仕事をしに來たのではないとか、譯譯は中々上手でトゥ／＼習う人が一人も無くなつて、先生にも餘まりお氣の毒なのですつかり止めちやつたんですよ、だからほんとに始末におえん人達ですよ」

「小母さんお腰のお洗濯ぐらい何故その人達にさせないの？」

「あれは強いて大切にすると云ふ譯ではないが、水を亂暴に使うから夏分になれば水道は水が斷水勝ちで困りますからあゝして部屋々々を廻つて襦袢から何から全部寄せ集めて洗濯屋（小使の宅などで家内達が内職にするのだとのこと）え出すんで、掃除にしたところがさせ樣ものならそれこそさつきの傳で、養生に來てるんだからと言つて跳ねつけるんでまあ雑仕婦が皆なで受持を定めといて毎朝眼の廻る樣な忙しい思ひをするんですよ」

憐れな姉妹達は身も心も斯ういふ風に漸次腐つてゆくのだらうか？。

六月二十四日（火曜日）

同僚のN樣もK樣も御郷里へお歸りになつたので、お陰で大分忙しくなつた。けれどもまだ／＼他の病院に比べると遙に呑氣である。殊に私などは今迄駒込病院に居たせいか朝などは夜の明け放たないうちから眼が醒めて何うしても他の方の樣に陽が床を照らすまでは我慢にゝ寝ては居られない。尤も他の病院などでは此處の樣に寝床は別としても朝だつて悠り寝られやしない。以前に私が洲崎病院に居た時私が母樣々々と申上て居たＳ樣はよく「斯ういふ病院は若い修養盛りの人の來べき所ではない、全くの隠居仕事だから」とお仰つたが、今では泌々その言葉が思はれる。

醫員でも事務員でも小使でも守衞でも夕方の四時を過ぎれば皆一室に集まつて將棋や雑誌などに時間を費して居るのだもの、何うしたつて隠居暮し位にしか見えやしない。それも申し合せた樣に田舍の遊廓でも都會でも一樣なんだもの。唯だ此處の院長さんは勤務中に樓主なんかを相手に碁打ちに熱中なさらないのは眞實うに感心だと思ふ。

六月二十五日（水曜日）

何時も同僚のＡ樣が此の病院のことを恰度戰場の樣だとお仰有るので、私は劇場の樣だと言つて居るが、何う見ても實際に劇場の樣に見えてならない。

先づ朝の七時になれば雑仕婦が各室の戸を騷々しくパタ／＼開けながら明けてゆく。ものゝ三十分計りも經つと内科患者服藥の鈴が鳴る。(各自に藥を與えておくと呑まずに窓から棄てたり故意と罎を破壞したりなどするから一々看護婦が與へる）續いて雑仕婦が各室を相の手入りでガタピシと掃除する。其處でカチ／＼と拍子木を打つ――と同時に雪崩を打つた樣に患者達が各自の食事を運ぶ。その樣は最も淺間しいものゝ一つだ。けれども彼の女等に採つては一日の中で待たれるものは三度の食事と治療時間より外にないのだから實際無理もない。彼の女達が大騷ぎをして食事を求めるのは止むを得ない事である。

朝のお食事が濟むと、面會や手紙の姓名を叫ぶ聲、入浴を知らせる聲が錯綜して、其の間に浴場に詰めかける雑沓が演ぜられる。着物は足の入れ場の無い程に亂雜に脱ぎ放たれ、紙片や綿屑などが散らされる。それを八ヶ釜く世話して居る人の嗄れ聲それは劇場で云ふなら確かに樂屋以上だ。此の騷ぎが一切鎭まると、看護婦達がその受持ち患者の部屋々々を猛り呼ぶ聲に連れて、糊帶姿やさま／＼なだらしのない姿の人々がぞろ／＼、繰り出す。これが終ればお晝の鈴と拍子木は朝と同じ樣に鳴らされて、亦騷ぎが繰り返へされ、一時頃から三時頃迄は何のこともなく、午後の治療は三時から四時までに看護婦がする事になつて居るが、それもほんの型ばかりで三十分計で濟んで了ひ、それからはゴロ／＼寝轉んだり、雑談に耽つたりして一日を終るのである。だから、何んの事はない何う見ても劇場の樣なもので毎日々々同じ樣なことを繰り返へしてたゞ時間を過ごして居るのである。

六月二十六日（木曜日）

今日は午後二時から先生方の研究會がある。それは東京市内にある各遊廓の病院の先生方の會合である。私は恰度當直番であつたので、他のお二人の方と一緒に手傳役を仰せ付かつた。

場所は三業組合事務所の二階の貴賓室で、私達の用事と云つては唯だお茶のお給仕をする丈けのことである。從つて徒然なるがまゝに、お話の筋を拜聽しやうと努めたが、何分壁の陰なんだからよくは聞えない。然し研究材料として、此の間まで入院して居た山本某と目下入院中の某といふ患者とを連れて來て、咽喉部や頭髮や脊などの病毒症狀を說明されて居たのは、何んとなく物の哀れを感じさせられた。そして此の會は二時間を經たぬうちに終り、散會となつたが、その時私は久闊振りに洲崎病院長に御挨拶申上げ轉た昔を懐しく思つた。

皆樣は暑中休暇には、名所廻りや、歸省などを樂しんで被居るけれど、今日も今日とて私は、一週間の後には是非とも一度洲崎病院に往つて、あの院長ざんの御指導のもとに、もつと／＼研究がしたい。僅かに一週間を經てば、暑中休暇も來るのであるが私は物見遊山や歸省などは仕度いとは思はない。それよりもあの洲崎病院に往き度い。病院にはあの當時のお友達も一人や二人は屹度被居るに違ひない、懐かしい舊いお友達とあの親切な院長さんのもとで研究することが出來たなら、何程にか幸福であらう。私の樣な弱いものは一日だつて遊んで過されはしない。私の一日は人樣の一年にも相當するのだもの、私は此の夏は洲崎病院で研究させて頂かねばならぬ、と思つたのである。

必要なる罪惡乎

『關山公論』主筆　岩野儁峰（寄）

◎內務省にては花柳病豫防法制定の準備として私娼狀態を明かにす可く私娼の分布沿革年齡報酬其の他數項に亘る調査方を各府縣知事に命令したとの事である。

◎元來賣春制度はサンガアの所謂『必要な罪惡（ネセサリーイブル）』と認められてゐる處のものであつて其の因つて來る處は極めて古く、或は其の起原は神前奉仕賣春に始まると言ひ或は饗應賣春に起因すると言ひ諸種の議論が行はれてゐるが、兎も角一種の生殖崇拜の觀念から發生し後代結婚制度其の他の社會制度に刺戟せられて廣く其の害毒を流布するに到つた事は瞭かである、吾國に於ても古事記中に現れたる天津日高日子番能邇々藝命と木花之佐久夜毘賣との關係、大久米命と伊須氣余理比賣との關係、日本書記の蝦夷の狀態を記せるもの、又は萬葉集の遊行女婦の稱歌等、孰れも古代の吾國にも此の風習の存在してゐた事を示すもので、其の後或は白拍子なり傀儡師となり白女となり或は海港のほとりに或は武家の館に常に其の流轉の姿を斷たざりしのみならず、一時は特に宮中に釆女なる者を置いて外國の使節に接せしめた時代もあるのである。

◎斯くの如く其の因つて來る處極めて古く且深きが故に是れが取締りは極めて困難であつて『イスラエルに娼婦ある可からず』と禁壓を下したモウセ律法の昔より娼婦を河に投じ火に焚きたるバビロニア時代は言はずもがな、其の扮裝及び居住區域に制限を下したアテネの隆盛時代より現時に到る迄、各國各時代を通じて是れが取締に意を注いだのであるが、是れを根滅する事は遂に不可能であつたのである。さりとて彼等の跋扈跳梁を自由に放任する事は社會の風紀衛生上到底堪へ得可からざる處であつて、例へば革命後の佛國は人權自由說の餘波を受けて勞働者が勞働を提供して報酬を得るは自由であるが如く娼婦が貞操を賣つて報酬を得る事も亦合理的であるとの觀念から、一時娼婦の取締を撤廢したが其の害毒に堪へずして間もなく取締を復活したのに據つて見るも自由放任の不可なるを知る事が出來る。

◎斯くの如く賣春制度は避く可くして而も避け難き『必要なる罪惡（ネセサリーイブル）』なるが故に、是れが取締に腐心した結果諸種の取締方法が案出さるゝに到つたのであるが現在行はれてゐる取締方法は大體三種に區分する事が出來る、曰く妓樓制（ボールデルシステム）、曰く、貸座敷制（ブローセルシステム）。曰く登錄取締制（レヂスタアシステム）。而して妓樓制度とは娼婦と樓主との間に雇傭關係を存し娼婦が樓主の傭人として樓內に生活し樓主の命によりて營業するもの、貸座敷制とは樓主娼婦の間に營業場所の貸借關係の存するも雇傭關係の存せざるもの則ち娼婦は多く營業場所を借り受け又は娼婦自らが樓主たる場合もある、最後に登錄取締制とは賣春營業者を登錄し是れに對して居住區域外出區域營業區域等を制限し又は服裝に對する特種の制限を設くる以外比較的彼等の自由を許すものを指稱するのである。

◎吾國の娼婦取締は言ふ迄もなく妓樓制度に據るものであつて吾國に始めて此の制度の確立したのは慶長十七年の事であるが爾來引續き現在に到る迄此の制度を墨守してゐるのである。尤も明治五年に到つて突然太政官布告二九五號を以て娼婦解放令なるものが發布されたが、諸種の關係から殆ど有名無實となり事實上江戶時代の人身賣買が依然として行はれてゐるのみならず、明治卅三年十月の娼妓取締規則によつて更に是れが裏書を爲し、別に私娼に對しては三十三年六月の行政施行法により是れが取締を行うてゐるのである。

◎然るに近松が『戀は不斷の伽羅を焚き籠にもまさる籠火は月常住の夜見世かな』等と淫蕩の世界を讃へた時代はいざ知らず現代の正義的觀念より觀る時は此の妓樓制には許容す可からざる弊害と罪惡と矛盾とが潜むでゐるのである。

◎先づ道義上より見るに、娼妓と樓主との關係は表面上雇傭關係であつて相互の自由意志によりて結ばれたる自由契約であるけれども、實際は昔時の人身賣買の範圍を出てず、契約に當つて樓主仲介者等の行ふ諸種の罪惡に就いては暫く默許するとするも、一旦契約成るや娼妓の自由は全く拘束せられ彼等の意志は殆ど無視せられて一種の奴隷と選ぶ處はないのである、文明を誇り文化を謳ふる今日、社會の日蔭になほ斯くの如き奴隷制度の殘存する事は、社會道德の上より到底許す可からざる罪惡である。是れ妓樓制度撤廢の聲起る所以の第一である。

◎次に社會風紀の上より言ふも國家が妓樓制度を是認して其の存在を許容すると言ふ事は、社會に此の罪惡を獎勵する結果を齎す、假令賣春制度が其の跡を斷たんとして斷ち能はざる『必要なる罪惡（ネセサリーイブル）』であるとしても、國家が出來得るたけ是れに禁壓を加へ一方教育其の他の力によつて、是れを罪惡視する觀念を普及するならば、社會一般は是が存在を嫌惡し登樓遊興を以て最も恥づ可き行爲として互に相戒むるに到るは瞭なる事實であるにも拘らず、正義其のものゝ表象である可き國家が率先して此の罪惡の存在を公然許容するとなれば、理解辯別の能力薄き青年は、登樓し遊興する事を公然の茶飯事と見當然の行爲と誤解し、毫も自己の行爲を恥ぢざるに到るは當然以上の歸結である。現に國立の妓樓を設けた羅馬（ローマ）の隆昌時代は上下淫蕩の氣風に浸され『羅馬（ローマ）は女色より滅べり』と稱する學者すら出づるに到つたてはないか、また吾國に始めて妓樓制を許容した慶長以來江戶時代を通じて、此の一廓に出入する者を通人として讃へ其の弊の及ぶ所測り知る可からざるものがあり、現時に於ても青年間に漸次其の氣風が瀰漫しつゝあるではないか。斯くの如く國家自らが遊興を獎勵し風紀の廢頹を是認する事は社會風紀

の上より到底許す可からざる罪惡である。是れ妓楼制度撤廢の聲起る所以の第二である。

◎最後に國家正義の上より見るも、妓楼制と檢黴制とは附き物であるが、現時の檢黴制は言語道斷に不完全なものであつて、殆ど有名無實である、巴里、フランクフルト・アム・マイン等では月二回、伊國のゲンツでは五日に一回、伯林、ステツチン、マルセイユ、リヨン、ライプチツヒ、ドレスデン等は一週一回、羅馬ハンブルヒ維納マドリツド等は一週二回の檢黴で、吾國も亦一週一回乃至二回の健康診斷を行ふ事になつてゐるが、而も檢黴に要する時間は一人二分間の割合だと言ふのだから、如何して完全なる診斷が出來得やう、現にロヒテが百七十二名の娼婦に就いて第一回の檢黴を行つた時には一九・一名の有毒者を出したが續て更に精査すると三八・八名に増加し、第三回の精査の結果五十名乃至六十五名の有毒者を發見したと言ふてはないか即ち精査すればする程有毒者が多くなるのが常態である。而も國家は此の不完全なる檢黴によつて事實上の有毒者にも『健康』のレツテルを貼り妓楼の店頭に陳列して置くのであるから、青年達が此のイカ物を信じて疾病を得無垢な家庭を汚穢すに到るのである、謂はゞ國家は國民を欺いてロース物を賣り付けるのである。斯くの如きは國家正義の上より許容す可からざる罪惡ではないか。是れ妓楼制廢止の聲起る所以の第三である。

◎次に社會衛生の上より見るも若し現在の檢黴方法が完全にして其の證明したる『健康』が眞に信じ得可くむば、娼婦より病毒を受くる者は無い筈である、然るにプラシユコが四百八十四名の花柳病者に就いて其の感染の原因を調べた結果によると、八一、一%は娼婦より、四、七%は下婢より、九、三%は女工より、四、九%は其他より感染したのだと言ふてはないか。斯くの如く花柳病傳播の源泉が娼婦に在る所以は畢竟其の檢黴が不完全なるのみならず、國家が其の健康を保證し國民を欺くが故に、思慮なき青年を誘引する結果を齎すが爲めに外ならぬ。斯くの如きは社會衛生上永く堪ふ能はざる處である、是れ妓楼制廢止の聲の起る所以の第四である。

◎要之、妓楼制の是認は人道上許す可からざる罪惡であるのみならず、遊蕩を奬勵し偽れる健康保證によりて青年子弟を陷穽に陷らしむるの結果を生ずるが故に、先進諸國に於ては是れが廢止の聲熾に起り、救世軍の運動を始め國際的廢娼同盟會の如き國際運動をすら見るに到つたのである。而して今や是れに代る可き制度として登錄監督制が推奬されつゝあるが、此の制度によれば二回以上の賣春を爲したる者を警察の帳簿に登錄し其の居住營業區域服裝夜間の彷徨誘引等を制限し、一定時に檢黴を行ふのであるが、此の制度は前述の如き諸種の弊害なく、且國民に、寛容は最も卑む可きもの恐る可きものとの觀念を與ふるが故に、社會風紀の上よりも社會衛生の上よりも好結果を齎し得る、此の制度の最も完全に行はれてゐるのは、諾威瑞典及び丁抹て、其後和蘭獨逸の諸都市等にも採用せられ、次いで英墺伊瑞西ホルランド等にも行はるゝに到つたのである。

◎翻て吾國の狀態を見るに、娼妓の數は大正三年に五一、〇九七名なりし者大正七年には四七、八一二名に減じ三千名以上の激減を見漸次減少の傾向があるが(公娼漸減の傾向は諸國とも軌を一にする處であつて、例へば伯林の登錄賣春婦は一八九六年には五、〇九八名なりしもの一九〇五年には三、一三五名に激減してゐる)其の代り私娼と認む可き藝妓は大正三年には四四四六九名に過ぎざりしもの同七年には五五、四六二名に激増し、酌婦は同期間に一、三三八名より一、四九八名に増加してゐる、其の他の密娼に到つては容易に其數を知り難きも恐らく漸增の傾向あるものと信ぜられるが、這は畢竟社會思想の推移に伴ひ、彼等も亦人身賣買の遺風に止むる妓楼公娼制を厭うて漸次私娼と化しつゝあるものと觀る可きであらう。

◎叙上の如く妓楼制は理論上許容す可からざる罪惡であるのみならず、事實に於ても、フレクスナアが言つた如く今や『瀕死の狀態に沈淪』しつゝあるのである、然るに吾國に於ては依然として妓楼制を許し依然として人身賣買の餘風を喜び、社會衛生社會風紀の廢頽紊亂を敢てしつゝあるは何故であるか、吾人は其の心事を解するに苦むものである、尤も一二の縣に於ては既に妓楼制を廢止し好成績を舉げつゝある縣もあるが、本縣に於ても知事は豫て廢娼の意思を有してゐる樣子であるから、此の際思切つて妓楼制度を撤廢し登錄監視制を採用しては如何ものであらうか。また内務省に於ても今回各府縣に命じたる私娼調査の終了を待ち、三十三年六月公布の娼妓取締規則を改正して欲しい、諸々の禍因たる妓楼制度の上に鐵槌を下すだけの勇氣と親切とが有つて欲しいものである。

會員諸賢へ

本部では去る五月八日演説會を、更らに六月十六七兩日は活動寫眞會を催しましたので、事務非常に錯綜し繁忙を極めました爲めに、本誌五號は遺憾ながら臨時休刊し、六號と併合發行するの止むなきに至りましたが、會員諸賢の御諒恕を願ひたいと存じます。猶ほ例年八月は休刊致して居りますが。本夏は發行して五號の埋め合せを致す豫定でありますから、御含み置き被下います樣に御願ひます。

來る二十八日(火曜)は神田明治會館に於て演説會を開き、加藤咄堂氏(國民思想の推移)文學博士村上專精氏(廓清に對する意見)、文學博士井上哲次郎氏(題未定)、高島米峰氏(未亡人の貞操)の講演あり、猶ほ七月三日(日)は本會第十回總會を神田青年會館に催すことに、決定しましたから會員諸賢の御來會あらんことを希望致します。

編輯之後

■平和な春を歡呼して居る間に、何時の間にやら濕潤な期節は遣つて來た。由來、梅雨期は種々なる惡疫も流行し始めれば、すべての物も腐れ易い時である。從つて病院繁榮坊主丸儲けの季節であるが、無産者階級に採つては質入れ替えの忙繁期である。隨つて種々なる悲喜劇は尤も多く此の季節に演ぜられ、自殺者の數も決して尠くはない。

■品川あたりでは、虎疫が出現したとかせぬとか、警察署の手落ちであるとか無いとか、醫者の怠慢であるとか無いとかと言つて、警視廳からは防疫官が飛んで往くし大分騷いで居るやうであるが、病氣に罹るべき多くの原因と機會は我等無産者階級には與えられて居るのであつて、警視廳あたりが、保健衛生を云々して入ヶ釜しく言つておる一方では、聊か話は尾籠に亘るが、屎尿は全市に充滿して、如何な貧乏人の家でも否貧乏人ほどが別に物好きと云ふ譯ではないが之れを多く蓄えて居るといふ始末だ。帝都の路傍に設けられて在る共同便所は悉く不潔で、汚液が外部に流出して居るのを吾々は屢々見せ付けられるのである。是れが全く等閑に附せられて居るのは、啻に都市の體裁上面白くないと謂ふばかりではなく、夫れでは折角の保健衛生も單なる裝飾用の看板化して仕舞ひはしないだらうか。

■それに我々無産者の多くは、此の濕潤な期節に當つて、住むべき家も與へられては居ない。實に我々無産者等は過去數年來といふもの露を凌ぐべき屋根を與へられて居ないのであつて、横暴なる家主等は依然として隨所に跳梁し、我等はその桎梏に泖かしめられて居るのである。東京市などでも貸家の建築を計畫して居ることは事實であるが、小田原評定の方が長くて到底も刻下の急の間に合ふべくもない。それ故幾ら我慢をして待つて居つても、我々の要求は容れられない。

■若し私共が所謂細民窟と稱えられ、貧民長屋と唱えられる處に足を入れて見るならば、幾何に多くの同胞が虐げられて居るかゞ明瞭に看取される。其處に棲んで居る人達は惡臭鼻を衝く樣な不潔極まる中に、碌々寢ることも可能ない狹隘な部屋に多人數が雜居し、往還は宛然滿路飾(?)でも欲した樣に、種々なる洗濯物が吊り下げられて居る。その下に何も知らぬ小供等は嘻々として無邪氣に遊てん居るのであつて、私共は常にそれを視るごとに、悲哀の感湧出し、同情の涙を禁じ得ないのであるが、其處には保健衛生の看板は何うして建て樣に。建てる場所は遺憾ながらないのである。

■其處に住むで居る人達が如何に衞生思想に富んで居ても、名狀すべからざる周圍の不潔は、悉く其れを裏切つて仕舞ふであらう。如何に家内を綺麗にして見ても、僅かの降雨にも氾濫する溝渠はその軒端にある。惡臭は二六時中其の家屋を圍繞して居るのであつて、加之生活の逼迫と家屋の拂底は狹い一室に數家族雜居の現象を現出して居るのであるから、到底も衞生などは想像も及ばない。その環境は彼等を導いて自惰落へ不衞生へと進ますべく作られて居るのであるから、從つて風紀も其處に紊され、種々なる病疫も其處に晡まれ、蔓延すべく組織されて居るのであつて、その改善は識者の倶に等閑に附すべき事柄ではない。

■如此現象は畢竟ずるに生活の逼迫がその主なる原因であることは言ふまでも無いが、その一面たる住宅難の緩和策は尤も急を要する問題の一つである。從來私達は貴族富豪の邸園開放、墓地の整理、官有地整理等に依つて、此の問題解決に要する住宅地を得ることは容易であることを唱えた。然しそれ等が悉く實現するまでには猶ほ多くの時日を要するのであつて、今日の急を緩和するにはより便宜なる方法を選ばねばならぬ

■即ち私はその方法として、一時的でも宜敷いから富豪貴族等の家屋の開放を望み度い。我々人間の棲息するには事々物々自ら必要量といふものはある。その必要量を超過したものは全く贅澤用に供されたものである。家屋にしても同樣であつて、貴族富豪等の住宅にはその生活に實用して居る以外の室があるのであつて種々なる名目のもとに生活上必要であると稱するだらうが、一方一室に數家族雜居して居る人達のことを思へば、餘剩した座敷は確かにあるべき筈である。乃ち私はその餘剩せる部屋の提供を望むのであつて、彼等がそれを開放してその邸宅をアパートメントたらしむることは、彼等に採つても種々なる社會奉仕の中でも尤も意義あり、活きたものであらうと考えるのである。

■若し是を實現する男氣と、社會奉仕の考えとが彼等富豪貴族にあるならば、今日の急は餘程緩和されるであらう。幵うなれば惡家主の跳梁も漸次止むことゝなるであらう。然しこれを彼等が欲しないとしても、社會は是を要求し、制度を定めれば宜敷いのである。それは決して前代未聞の珍說でもなければ、私の發見した新說でもないのであつて、社會の一部には既に之れに類したことは實行されて居る。即ち軍隊が宿營する場合に宿舍の徵發を遣つて居るが、此の際此れを準用する樣に制度を定めれば宜敷いのであつて、貴族富豪も急に處する覺悟を持つて之れに當れば宜敷いのであるが、若し彼等が社會共存の意義を理解し、家なき我等階級の者に眞實の誼みを持ち、僞らざる社會奉仕の念に燃えて居るならば、此の問題の解決は極めて容易であつて、彼等が僅かの不便を忍ぶと忍ばざるとは、懸つて我等無產者階級の安危の分るゝところであり、此の問題に對する彼等の態度は彼等の對社會觀念のバロメーターを爲すものと觀ることも可能る。(清美)

大正十年六月十日印刷　（每月一回十日發行）
大正十年六月十日發行　（一部定價金二十錢）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　本鄉區眞砂町三十六番地　佐藤駒次郎
印刷所　本鄉區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

藁屑となりて送るな世の中を寶玉の如く送れ世の人

健腦丸

島村醫學博士
有効證明

寶玉となるべき人は健腦丸常に用ゆる腦の良き人

最良なる
腦病神經病新薬

主効

◉腦病　◉腦充血
◉腦膜炎　◉神經痛
◉腦貧血　◉眩暈
◉便祕　◉中風
◉耳鳴　◉健忘
◉搐搦　◉頭痛
◉卒中　◉逆上

◉健腦丸を常に少量づゝ持藥とせば逆上を引下け、便通を心能くし、恐るべき腦充血を全治し、中風、卒中を未發に防ぎ記憶力を増進する特効あり。

藥價 一日半十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金二圓

本舗
大阪市心斎橋貳丁目 丹平商會本店
東京市日本橋區箔屋町 丹平商會支店

第十一巻　廓清　第五・六號
6—220

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可）（毎月一回十日發行）
（大正十年六月十日印刷納本）



大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋
警醒社、北隆館、文明堂

定價一冊金二十錢